

盤の管理・盤図の出力

目 次

1. 盤の管理	2
[盤の管理]ダイアログの画面	
盤の分類	
盤のタイプ	
配電盤の設定	
動力盤を分ける	
盤に複数の幹線を接続する	
2. 配線管理との連携	19
[盤の管理]の情報を自動取得	
値の編集	
経路の設定	
3. 盤図の出力	28
[盤の管理]から出力	
[データリンク]から出力	
(参考)表の更新	

更新日：2025/12/1 Rebro2025対応

1. 盤の管理

[盤の管理]コマンドでは、盤と盤を幹線で接続し、盤の親子関係をツリー構造で作成します。分電盤につながる照明器具などの情報を、回路番号を基に入力して盤ごとの管理をすることができます。

また、[盤の管理]で作成した内容を[配線管理]コマンドに反映し、幹線亘長を設定することができます。

更に[盤の管理]-[データリンクの設定を出力]または、[データリンク]コマンドを使用して、盤の種類ごとに盤図として図面に貼り付けることができます。貼り付けた表は、[盤の管理]と連動します。

[盤の管理]ダイアログの画面

盤の分類(p.3参照)

親の幹線の情報

1次側の情報

幹線番号

全体の合計値

「(数字)」は、盤または幹線番号ごとの合計値

盤名称

:図面に配置した盤

:「盤の管理」で追加した盤

文字の色が黒色の値は、手入力した値です。

文字の色が緑色の値は、項目タイプ「[キー]」となっている値です。キーの値ごとに情報が表示されます。青色は、図面上の要素などの情報とリンクした値です。(p.5~6参照)

OK キャンセル

- 2 -

The screenshot shows the 'Disk Management' dialog box with several callouts:

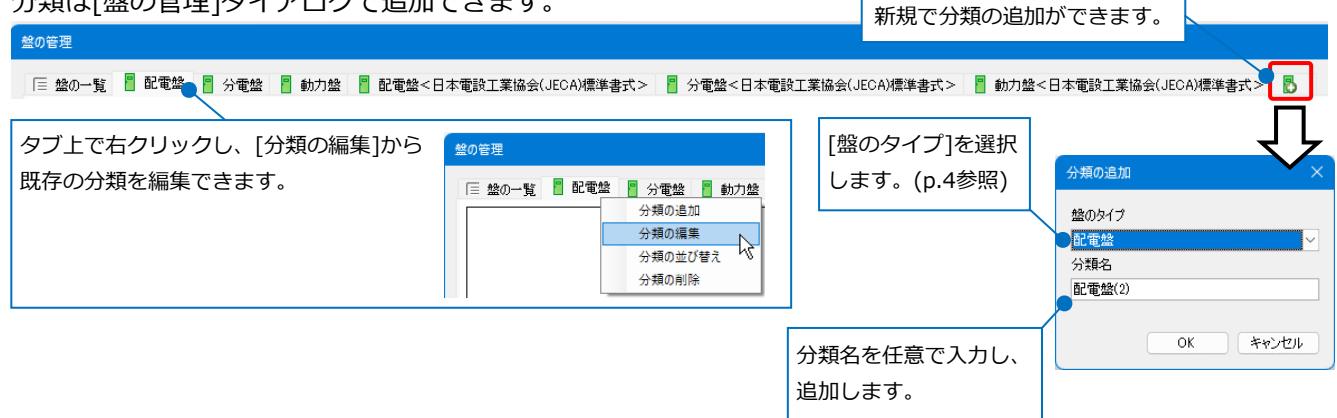
- A callout labeled "幹線番号" points to a blue-highlighted value in the "Line Number" column of the main table.
- A callout labeled "1次側の情報" points to the "Main Side Information" section of the dialog.
- A callout labeled "全体の合計値" points to the "Total Value" column in the main table.
- A callout labeled "「(数字)」は、盤または幹線番号ごとの合計値" points to numerical values in the table.
- A callout labeled "手入力した値です。" points to black-colored text in the "Main Side Information" table.
- A callout labeled "文字の色が緑色の値は、項目タイプ「[キー]」となっている値です。キーの値ごとに情報が表示されます。青色は、図面上の要素などの情報とリンクした値です。(p.5~6参照)" points to green-colored text in the "Main Side Information" table, which is linked to a detailed component information dialog.
- A callout labeled "LEDダウントライト" points to the component name in the detailed component information dialog.

盤の分類

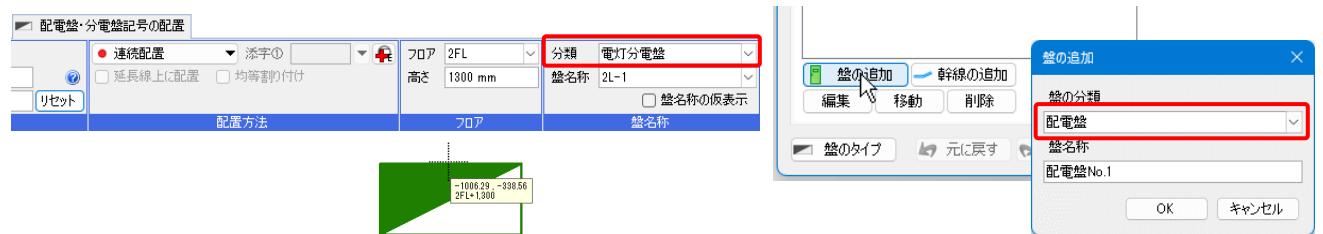
盤には「盤の分類」を設定します。[盤の管理]の分類名のタブを選択すると、所属する盤のリストが表示されます。



分類は[盤の管理]ダイアログで追加できます。



[盤の分類]の設定は、図面上に盤を配置する時、もしくは、[盤の管理]の[盤の追加]で盤を追加する時に設定します。



盤に設定した分類は、[盤の管理]の盤名称で右クリックし、[編集]から変更できます。



盤のタイプ

「盤の分類」ごとに「盤のタイプ」を設定します。

タイプは、[盤の管理]ダイアログの[盤のタイプ]もしくは、[電気]タブ-[盤のタイプ]で追加、編集することができます。



[盤のタイプ]でタイプごとに盤の情報として必要な項目を設定します。設定した項目が、[盤の管理]ダイアログで盤ごとに表示されます。(p.7 ③ 図参照)

任意でタイトル名を入力します。
入力した名称が、[盤の管理]ダイアログで項目名として表示されます。

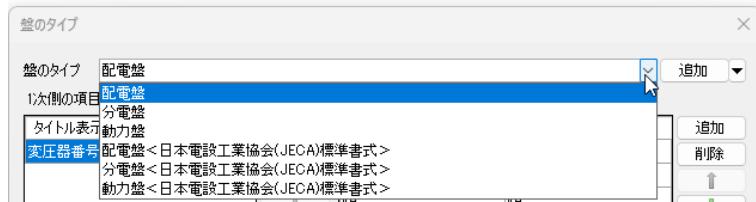
[追加]をクリックし、新たにタイプを追加します。
[▼]から既存のタイプ名の変更や並び替えが行えます。

項目タイプを選択します。
(各項目については次ページ参照)

Memo
[設定]-[「図面の初期値」に保存する]で設定した盤のタイプを初期値へ保存することができます。
[「図面の初期値」から読み込む]で[ホーム]タブ-[設定]-[図面の初期値]タブ-[コマンドの初期値]-[電気]-[盤のタイプ]から設定を読み込み反映することができます。

● 補足説明

[盤のタイプ]の「～<日本電設工業協会(JECA)標準書式>」は、JECAの書式に合わせて項目を設定したタイプです。



項目タイプ

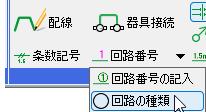
2次側で表示する内容は、項目タイプの一覧から選択します。項目タイプには、値を手入力する項目や、図面上の要素とリンクし、自動で値を取得する項目、[配線管理]に追加した値を反映する項目などがあります。

キー項目

項目タイプ名の末尾に「[キー]」とある項目ごとに[盤の管理]上で情報がまとめて表示されます。

「幹線番号[キー]」または、「回路番号[キー]」のどちらかを必ず選択します。

「幹線番号[キー]」を選択した場合は、項目タイプ「負荷名称」を選択する必要があります。

項目タイプ	入力する値
幹線番号[キー]	手入力、または[盤の管理]で設定した幹線番号から選択 No. 幹線No. 電源種類
回路の種類[キー]	手入力、または[盤の管理]-[行の挿入]横の[▼]-[図面から回路番号の取得]で図面上から自動取得 行の挿入 削除 上 下 並 選択行を別の盤に移動 図面から回路番号の取得
回路番号[キー]	※図面上の器具と配線の情報も変更することができます。 ※「回路の種類[キー]」は、[電気]タブ-[回路番号]横の[▼]-[回路の種類]で設定した種類から選択します。
回路番号の添字(個別)[キー]	

キー以外の項目：「幹線番号[キー]」を選択した場合

項目タイプ	入力する値
自由文字列	手入力
機器番号	手入力
負荷名称	自動取得、または[盤の管理]上から盤の選択 ※手入力で仮想の盤(p.7参照)を追加します。
型番	手入力
電源種類	子の盤の1次側の情報から自動取得、または手入力
電圧[V]	※手入力した場合、子の盤の1次側の情報を更新します。 (p.11参照)
相	
系統(配線管理)	图形を選択 ※[配線管理]に反映します。
幹線枝番号(配線管理)	
幹線種類(配線管理)	
幹線太さ(配線管理)	手入力または[配線管理]コマンドの[幹線]タブで入力した幹線情報を自動取得(p.19参照)
配管(配線管理)	
亘長(配線管理)	
運転時の定格/最大電流(合計)	自動取得、または手入力
負荷容量(合計)	※手入力で[盤の管理]上の表示用の値に上書きできます。
運転時の定格/最大電流(個別)	
負荷容量(個別)	
始動方式_工事区分	入力不可
始動方式	
台数	

キー以外の項目：「回路番号[キー]」を選択した場合

項目タイプ	入力する値
自由文字列	手入力
回路番号の添字(結合)	指定した回路番号を持つ機器器具から自動取得 ※複数種類の添字が混在する場合、3個以上が連番になっている添字は「～」で結合され、それ以外はカンマ区切りで添字がリストアップされます。
機器番号	自動取得、または手入力
負荷名称	※手入力で[盤の管理]上の表示用の値に上書きできます。
型番	
電源種類	入力不可
電圧[V]	自動取得、または手入力 ※手入力した場合、図面上に配置した器具の情報も更新します。 ※「電圧[V]」は数値のみ入力できます。
相	※異なる値が混在する場合は5件まで表示します。
運転時の定格/最大電流(合計)	自動取得(各項目「(個別)」の値を基に計上)、または手入力
負荷容量(合計)	※手入力で[盤の管理]上の表示用の値に上書きできます。
運転時の定格/最大電流(個別)	自動取得、または手入力
負荷容量(個別)	※手入力した場合、図面上に配置した器具も変更します。
始動方式_工事区分	※異なる値が混在する場合は5件まで表示します。
始動方式	
台数	自動取得

配電盤の設定

配電盤に分電盤を幹線で接続します。

サンプル画面「サンプル事務所(盤の管理).reb」を開きます。ここでは、[盤の管理]を使用し、図面に配置していない仮想の配電盤を設定します。サンプル画面に配置された器具には、回路番号が設定しております。

仮想の配電盤を追加

- [電気]タブ-[盤の管理]をクリックします。



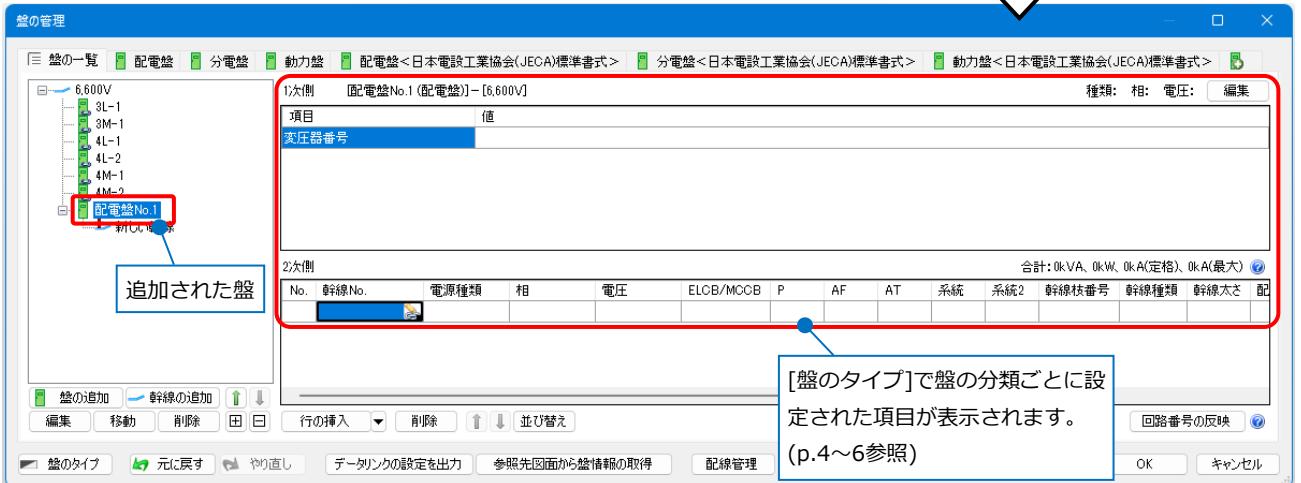
- [盤の追加]をクリックし、盤の分類と盤名称を設定します。

[盤の分類] : 「配電盤」

[盤名称] : 「配電盤No.1」

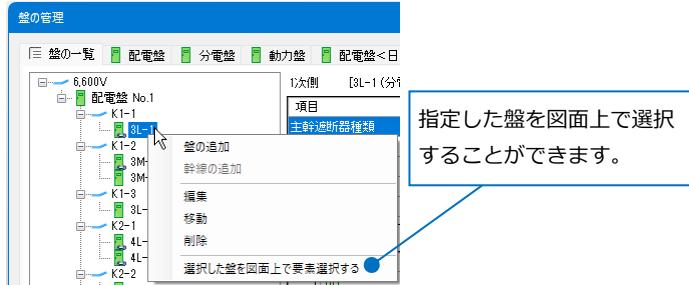
- [OK]をクリックします。

→盤名称が追加されます。



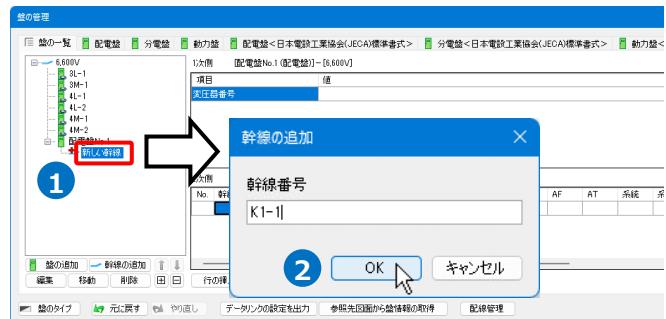
Memo

[盤の一覧]タブで幹線または盤名称の右クリックで、コンテキストメニューからも追加できます。



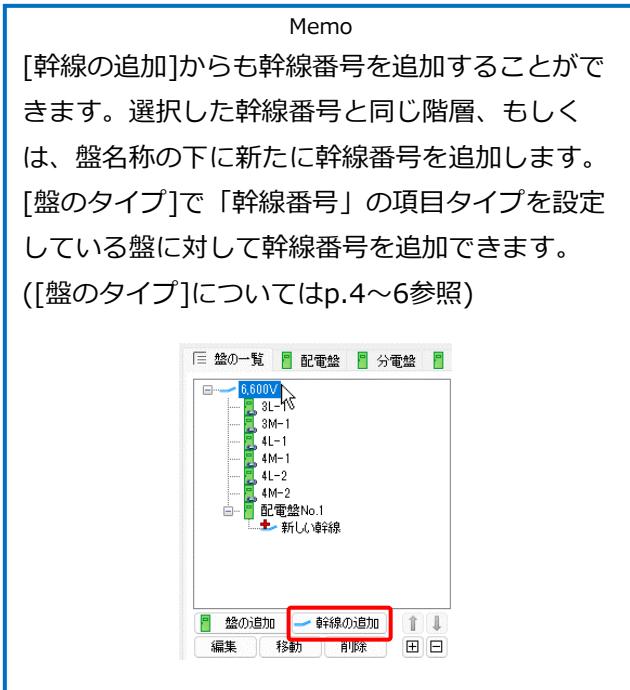
配電盤に幹線を追加

- ❶ [盤の一覧]タブの[新しい幹線]をクリックします。
- ❷ [幹線の追加]ダイアログで幹線番号「K1-1」を入力し、[OK]をクリックします。
- ❸ 同様に「K1-2」、「K2-1」、「K2-2」を追加します。



Memo

[幹線の追加]からも幹線番号を追加することができます。選択した幹線番号と同じ階層、もしくは、盤名称の下に新たに幹線番号を追加します。[盤のタイプ]で「幹線番号」の項目タイプを設定している盤に対して幹線番号を追加できます。([盤のタイプ]についてはp.4~6参照)

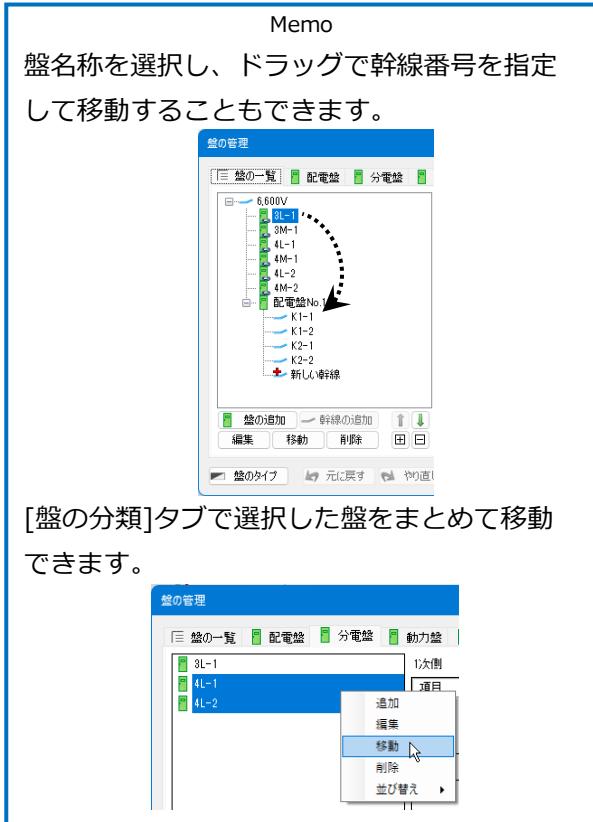


幹線に図面上の分電盤を接続

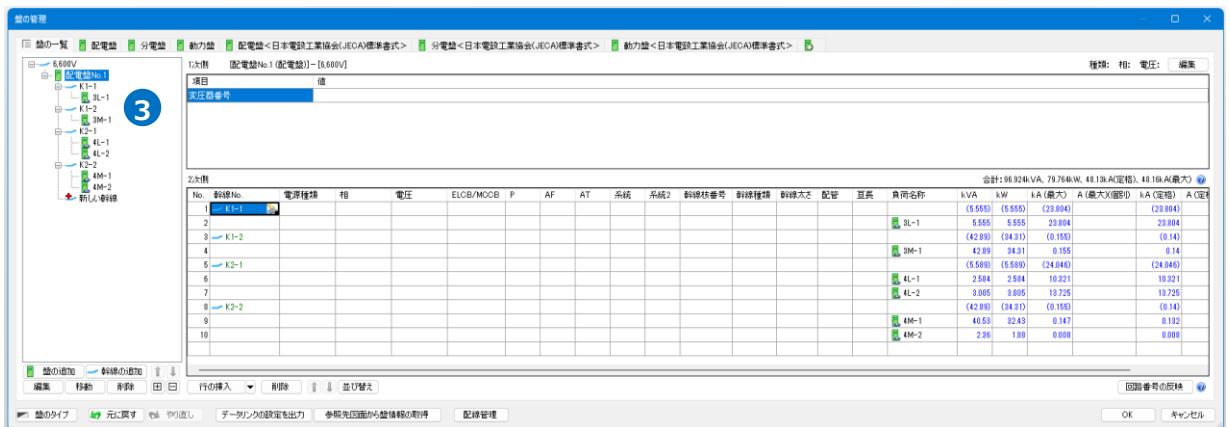
- ❶ [盤の一覧]タブでツリーから分電盤の名称「3L-1」を選択し、[移動]をクリックします。



- ② [移動]ダイアログで幹線番号「K1-1」を選択し、[OK]をクリックします。
→選択した幹線番号の下に分電盤が移動します。



- ③ 同様に各分電盤を移動します。
「3M-1」：幹線番号「K1-2」
「4L-1」、「4L-2」：幹線番号「K2-1」
「4M-1」、「4M-2」：幹線番号「K2-2」



幹線の情報を編集

- ① [盤の一覧]タブで「配電盤No.1」をクリックします。

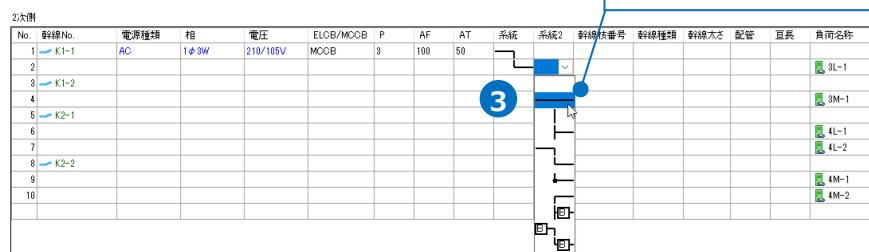
The screenshot shows the software's main window with the 'Panel List' tab selected. On the left, a tree view shows a panel named '配電盤No.1'. A circled '1' points to the panel name. On the right, there are two tables: '幹線' (Circuit) and '2次側' (Secondary side). The '幹線' table has columns for No., 開線No. (Circuit No.), 電源種類 (Power source type), 相 (Phase), 電圧 (Voltage), ELCB/MCCB, P, AF, AT, 系統 (System), and 開線番号 (Circuit number). The '2次側' table has columns for No., 開線No. (Circuit No.), 電源種類 (Power source type), 相 (Phase), 電圧 (Voltage), ELCB/MCCB, P, AF, AT, 系統 (System), and 開線番号 (Circuit number). A callout box on the right says '幹線番号ごとの負荷容量の合計を確認できます。' (Check the total load capacity by circuit number).

- ② [電源種類][相]で値を選択します。

[電圧][ELCB/MCCB][P][AF][AT]で値を入力します。該当のセルをクリックし、手入力します。

No.	幹線No.	電源種類	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT
1	K1-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50
2								
3	K1-2							
4								
5	K2-1							
6								
7								
8	K2-2							
9								
10								

- ③ [系統][系統2]で、幹線と分電盤、動力盤のつながりを図形で表示します。

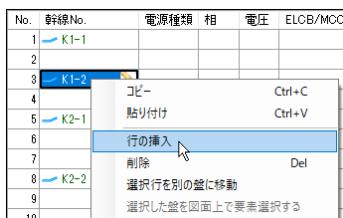


- ④ 行を追加する場合は、[行の挿入]をクリックし、追加したい行数を指定します。

→選択している行の上に指定した行数分の空行が追加されます。

Memo

行の上で右クリックし、コンテキストメニューから[行の挿入]もできます。



No.	幹線No.	電源種類	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT	系統	系統2
1	K1-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50		
2										
3	K1-2									
4										
5	K2-1									
6										
7										
8	K2-2									
9										
10										

クリック

4 行の挿入

行の挿入

追加する行数 1

OK キャンセル

2次側

No.	幹線No.	電源種類	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT	系統	系統2
1	K1-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50		
2										
3	K1-2									
4										
5	K2-1									
6										
7										
8	K2-2									
9										
10										

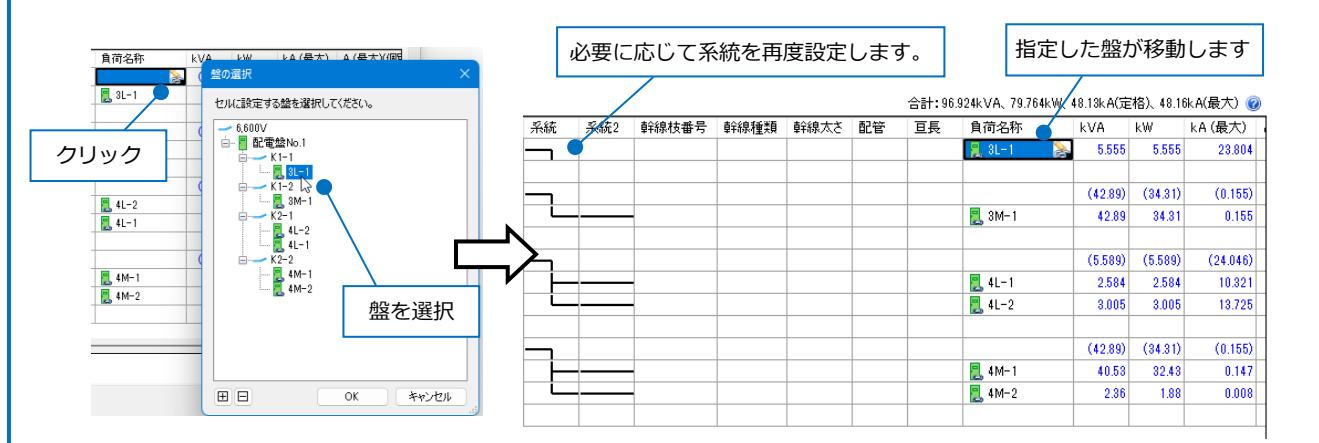
5 他の幹線も同様に設定します。

2次側

No.	幹線No.	電源種類	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT	系統	系統2	幹線枝番号	幹線種類	幹線太さ	配管	亘長	負荷名称	kVA	kW	kA(最大)
1	K1-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50								(5.555)	(5.555)	(28.804)	
2											3L-1					5.555	5.555	28.804	
3																			
4	K1-2	AC	3φ 3W	200V	MCCB	3	100	50								(42.89)	(34.31)	(0.155)	
5											3M-1					42.89	34.31	0.155	
6																			
7	K2-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50								(5.589)	(5.589)	(24.046)	
8											4L-1					2.584	2.584	10.321	
9											4L-2					3.005	3.005	13.725	
10																			
11	K2-2	AC	3φ 3W	200V	MCCB	3	600	600								(42.89)	(34.31)	(0.155)	
12											4M-1					40.53	32.43	0.147	
13											4M-2					2.36	1.88	0.008	

Memo

[負荷名称]のアイコンをクリックし、盤名称を選択することで該当する盤名称のセル位置が移動します。



● 補足説明

1次側で盤の1次側情報を設定できます。

1次側 配電盤 No.1 (配電盤) - [6,600V] 種類: AC 相: 3φ 3W 電圧: 6,600V 編集

項目	値
変圧器番号	TR1

「盤のタイプ」で設定した項目名が表示されます(p.4参照)。

[編集]から[電源種類][相][電圧]を設定します。値は手入力で設定できます。

種類・相・電圧の編集
種類: AC
相: 3φ 3W
電圧: 6,600V

分電盤、動力盤の1次側[電源種類][相][電圧]は親の配電盤の2次側の項目とリンクしているため、入力した値が相互に連動します。

No.	幹線No.	電源種類	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT	系統	系統2	幹線枝番号	幹線種類	幹線太さ	配管	亘長	負荷名称
1	K1-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50			3L-1					
2																

項目	値
主幹遮断器種類	MCCB
P	3
AF	100
AT	50
SPD	あり

動力盤を分ける

動力盤に設定している一部の回路を別の盤に移動します。ここでは、図面上にない仮想の動力盤を作成して移動します。

仮想の動力盤を追加

- [盤の一覧]タブで幹線番号「K1-2」をクリックします。



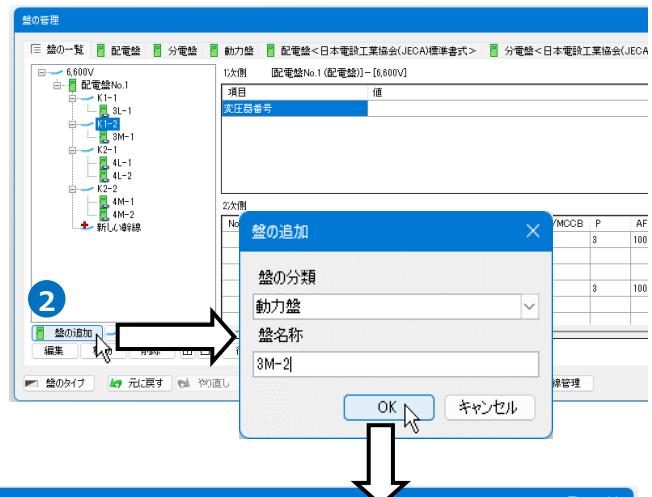
- [盤の追加]をクリックし、[盤の追加]ダイアログより分類と名称を入力します。

[盤の分類] : 「動力盤」

[盤名称] : 「3M-2」

入力後[OK]をクリックします。

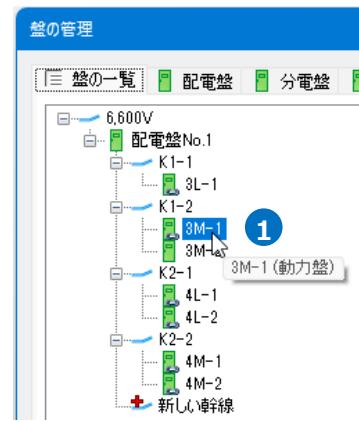
→幹線番号「K1-2」の下に動力盤が追加されます。



回路の移動

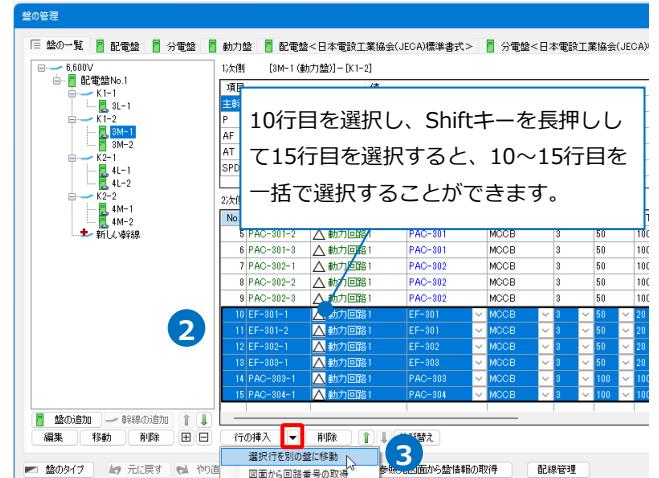
① [盤の一覧]タブで盤名称

「3M-1」をクリックします。

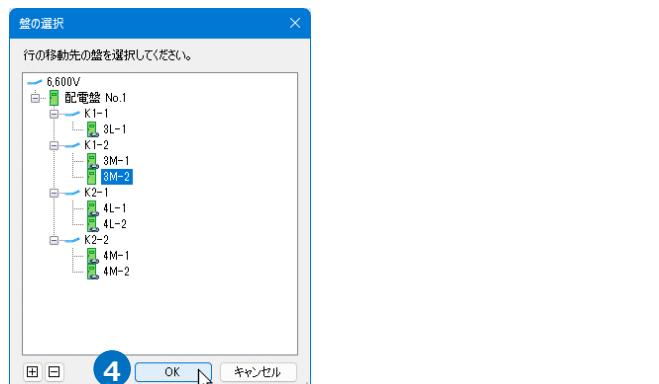


② 回路番号「EF-301-1」～「PAC-304-1」

(10～15行目)を選択します



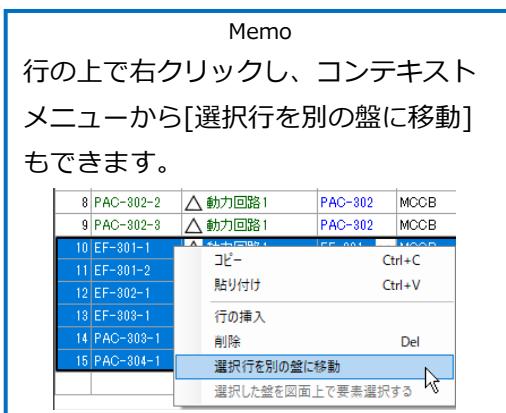
③ [行の挿入]横の[▼]-[選択行を別の盤に移動]をクリックします。



④ [盤の選択]ダイアログで移動先の盤を指定します。

「3M-2」を選択し、[OK]をクリックします。

→選択した回路が移動します。



● 補足説明

[並び替え]で盤表の行を指定した条件で並べ替えることができます。



回路番号が昇順の場合

項目名	順序
回路番号	昇順
1 101	昇順
2 102	
3 103	
4 104	
5 105	
6 106	
7 107	

回路番号が降順の場合

項目名	順序
回路番号	降順
1 107	降順
2 106	
3 105	
4 104	
5 103	
6 102	
7 101	

盤に複数の幹線を接続する

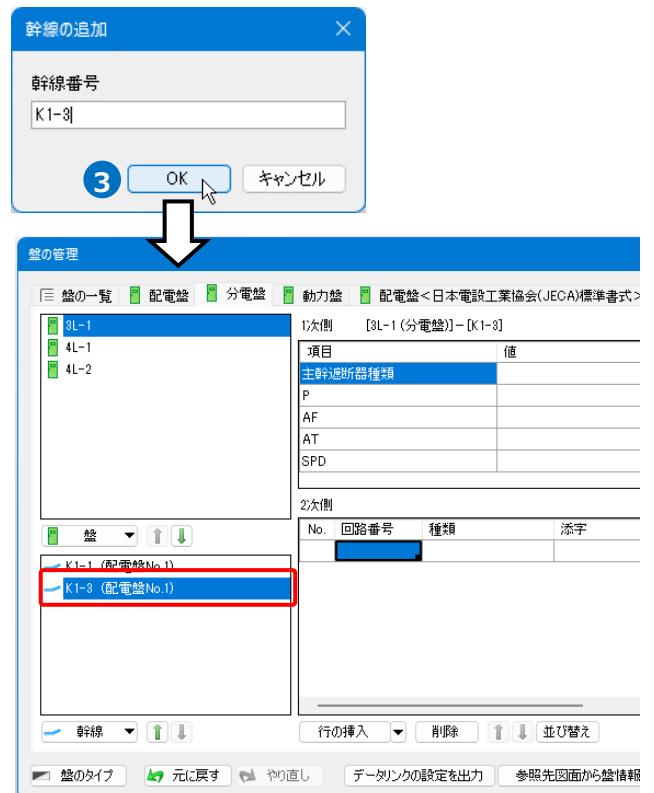
分電盤を2つの幹線に分けて接続します。ここでは、「3L-1」の分電盤に「K1-3」の幹線を追加し、回路を分けます。

幹線を追加

- [分電盤]タブをクリックし、盤名称「3L-1」を選択します。
- [幹線]-[追加]をクリックします。

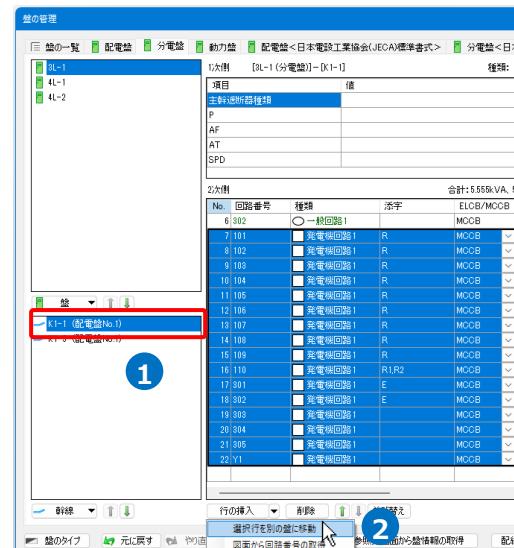


- ③ [幹線の追加]ダイアログで幹線番号を入力し、[OK]をクリックします。
→「3L-1」の盤に幹線番号が追加されます。

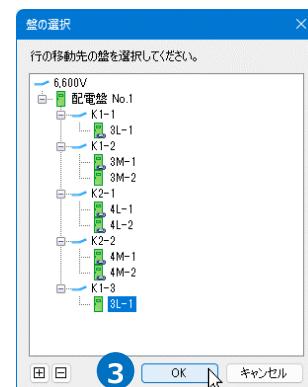


回路の移動

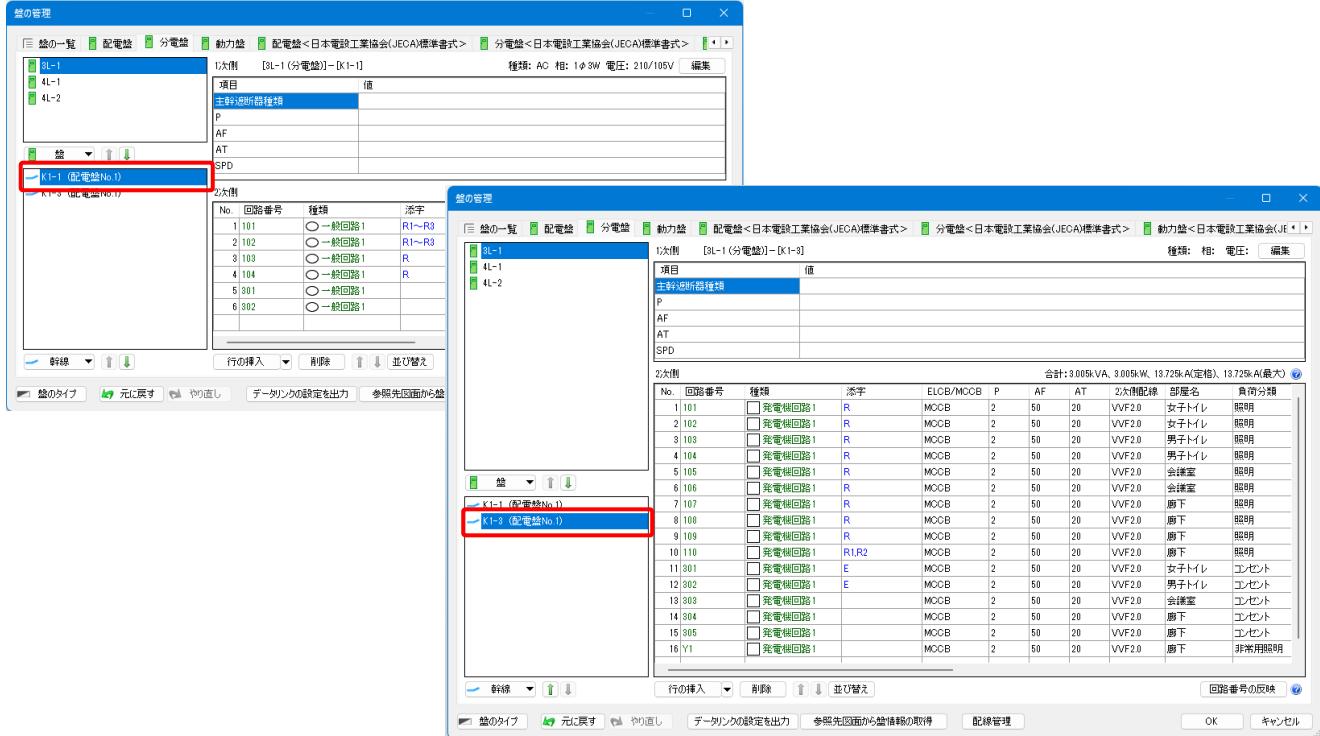
- ① 幹線番号「K1-1(配電盤No.1)」をクリックし、「発電機回路1」(7~22行目)を選択します。
- ② [行の挿入]横の[▼]-[選択行を別の盤に移動]をクリックします。



- ③ [盤の選択]ダイアログで移動先の盤を指定します。
幹線番号「K1-3」に接続している「3L-1」を選択し、[OK]をクリックします。



→選択した回路が移動します。



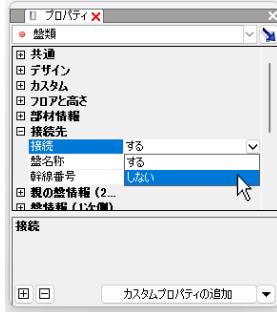
● 補足説明

仮想の盤から図面上の盤への回路の移動

仮想の盤の回路をリンクされた盤に移行する場合も、[行の挿入]横の[▼]-[選択行を別の盤に移動]で回路を移動することができます。

[盤の管理]に表示しない盤

複数面の盤など、[盤の管理]で非表示にしたい盤がある場合は、盤のプロパティ[接続先]-[接続]を「しない」に変更します。



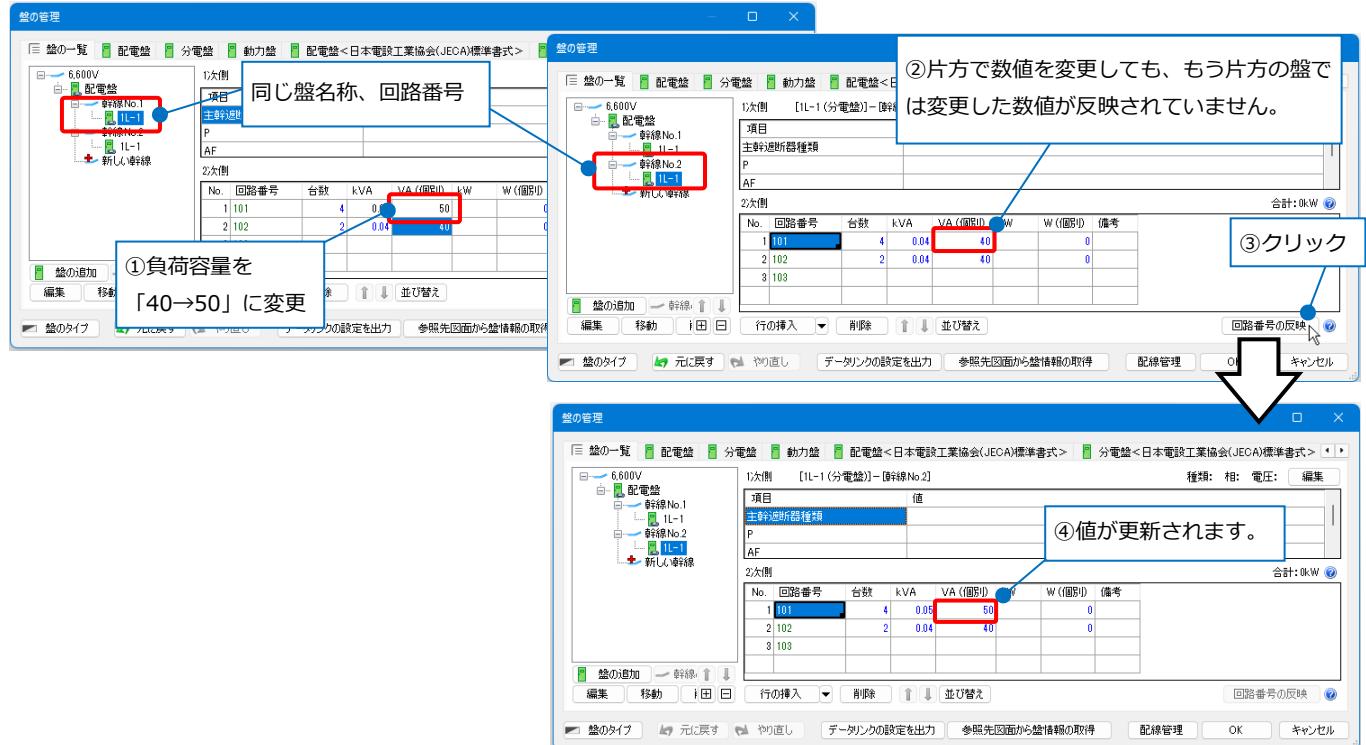
回路番号の反映

[盤の管理]で修正した内容はダイアログを[OK]で閉じると、図面と[盤の管理]の情報が更新されます。

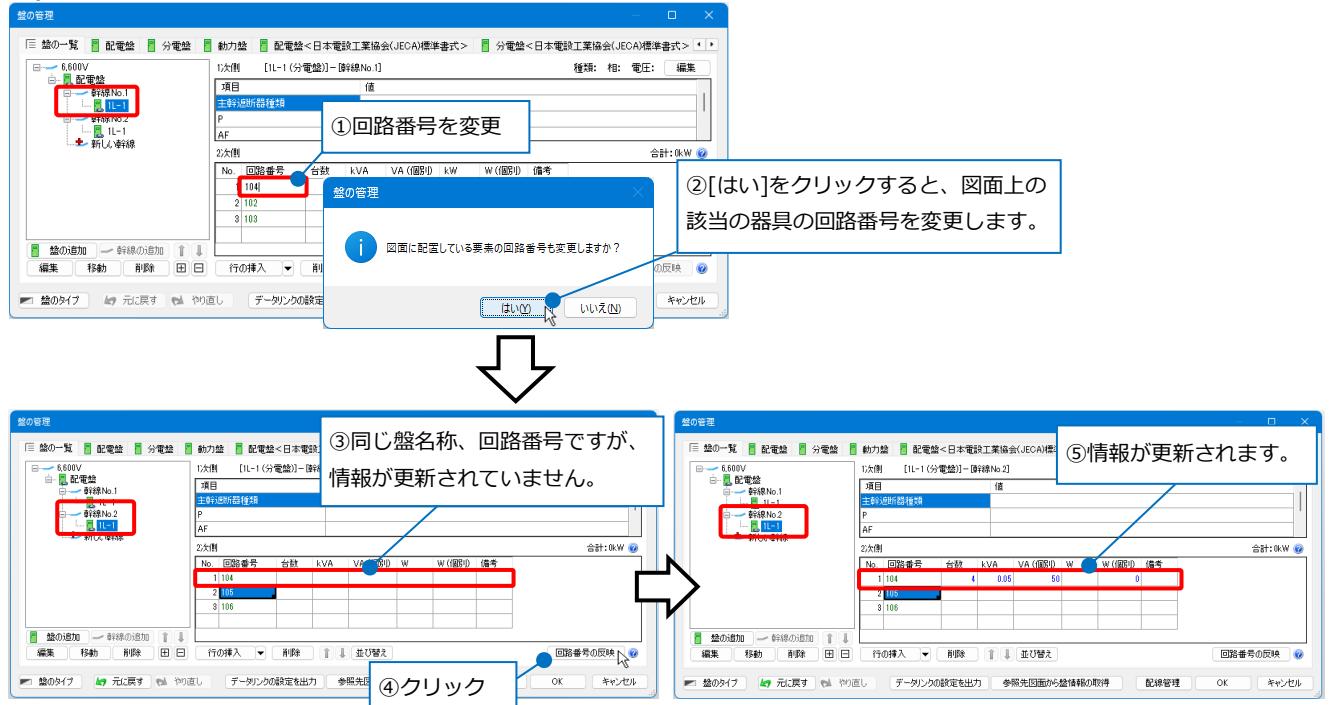
[盤の管理]の編集中に情報を更新する場合は、[回路番号の反映]をクリックします。

例えば、同じ名称の盤が複数あり、同じ回路番号の設定をしている時、情報を変更した盤以外の同じ名称の盤にも変更した値が反映できます。

例)負荷容量の変更



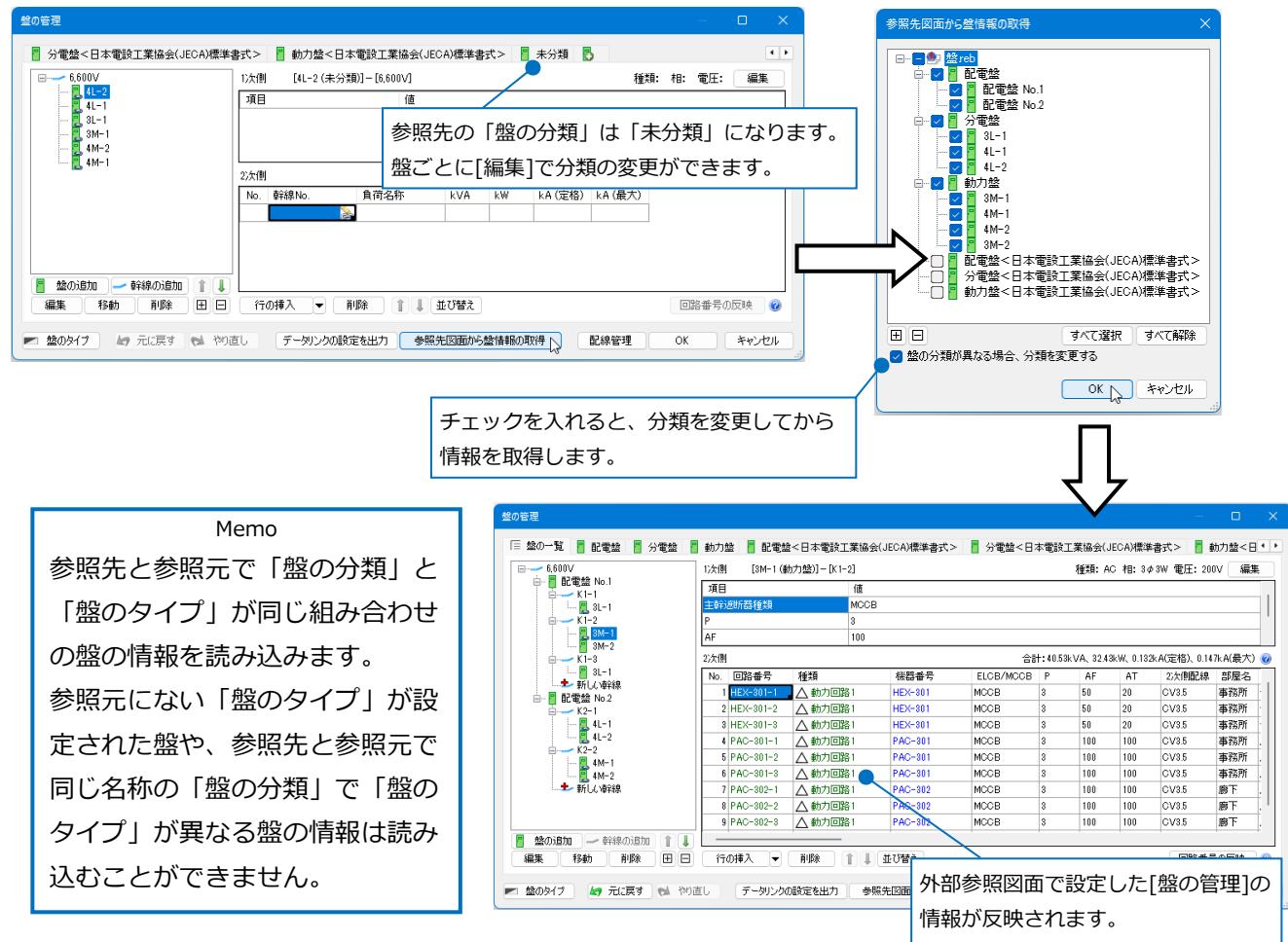
例)回路番号の変更



外部参照図面の盤情報の取得

外部参照図面に配置されている盤は、「未分類」の盤として[盤の管理]に表示されます。

参照先で[盤の管理]の設定をしている場合、[参照先図面から盤情報の取得]より盤情報を取得できます。



外部参照の詳細については、テクニカルガイド「[外部参照](#)」をご覧ください。

● 補足説明

[参照先図面から盤情報の取得]で[盤の分類が異なる場合、分類を変更する]のチェックが外れていると、参照元にない「盤の分類」が設定された盤や、参照元と参照先で盤名称が同じで「盤の分類」が異なる盤の情報は読み込みません。

チェックを入れると、参照先の「盤の分類」が参照元ではなく、「盤のタイプ」がある場合、「盤の分類」を作成します。また、参照先と参照元で盤名称が同じで、下記条件に当てはまると参照先の情報に変更されます。

- ・参照先と参照元で「盤の分類」「盤のタイプ」がどちらも異なる場合
- ・参照先と参照元で「盤の分類」が異なり、「盤のタイプ」が同じ場合

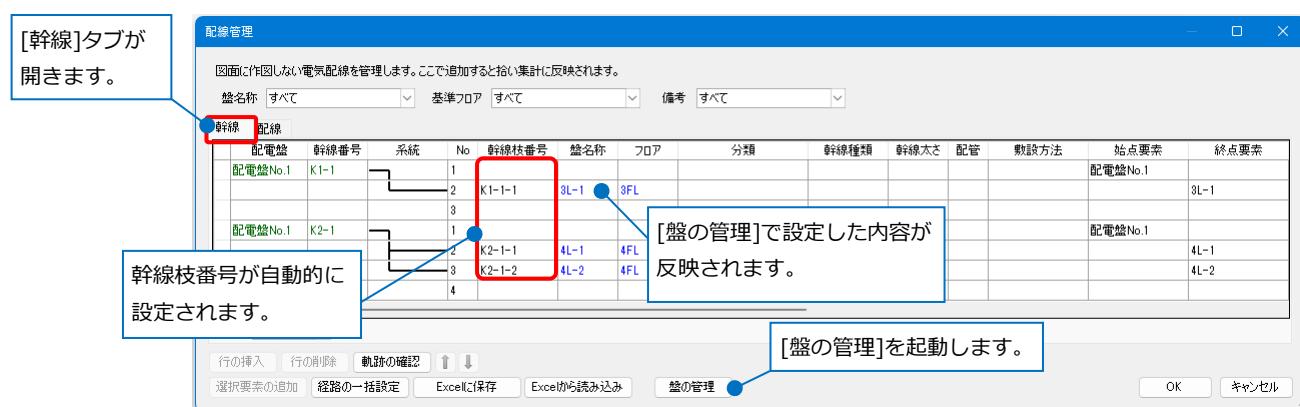
2.配線管理との連携

[盤の管理]コマンドで設定した幹線情報を[配線管理]コマンドで自動取得し、項目を追加して[盤の管理]に反映することができます。幹線の長さを接続点区切りの幹線亘長に設定することができます。
サンプル画面「サンプル事務所(配線管理).reb」レイアウト「幹線」を開きます。

[盤の管理]の情報を自動取得

[電気]タブ-[配線管理]をクリックし、[幹線]タブを表示します。

[盤の管理]で設定した幹線の内容が反映され、[幹線枝番号]が自動で設定されます。



● 補足説明

[配線管理]で入力、経路を指定して設定した[幹線枝番号][幹線種類][幹線太さ][配管]は、[盤の管理]に反映されます。また、経路の設定により求められた[長さ]は、[盤の管理]の[亘長]に反映されます。

(経路の設定についてはp.22~27参照)



設定項目

[盤の管理]から取得する項目と、[配線管理]のみ表示する項目、[盤の管理]に反映する項目があります。

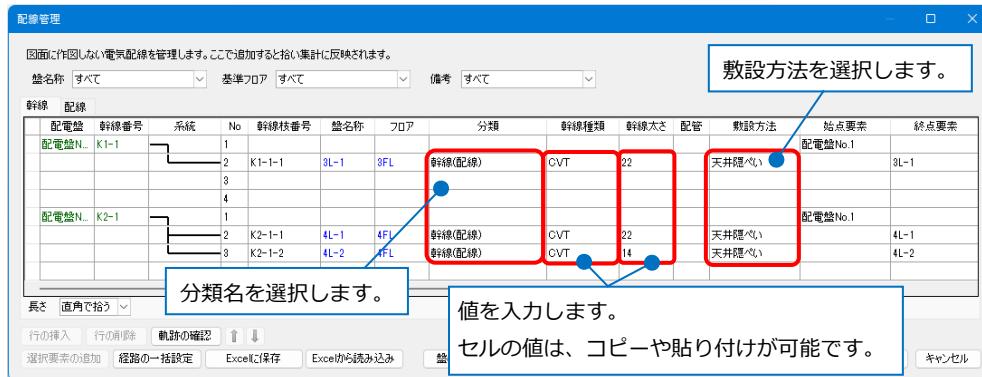
項目名	入力する値
配電盤 幹線番号	[盤の管理]から自動取得
系統	[盤の管理]から自動取得 ※プルダウンで色の変更ができます。
No	幹線ごとの連番
幹線枝番号	幹線ごとの枝番号を自動設定、または手入力 ※[盤の管理]に反映します。
盤名称	[盤の管理]から自動取得
フロア	盤の基準フロアが反映
分類	配線のレイヤーから選択
幹線種類 幹線太さ 配管	手入力、または[Excelから読み込み]で入力 ※[盤の管理]に反映します
敷設方法	[敷設方法]から選択
始点要素	経路の始点、終点位置となる要素または座標を指定
終点要素	※配電盤は幹線番号の始点要素に、分電盤、動力盤は幹線枝番号の終点要素に盤名称が自動取得されます。
経路	要素または座標を指定
余長	数値または計算式を入力 ※[長さ]に加算されます。(数値はmm単位)
長さ	始点要素、終点要素、経路から求めた長さを表示 ※長さの「直線で拾う」「直角で拾う」の選択で長さが変わります。 ※[盤の管理]の「亘長」に反映します。
負荷容量	[盤の管理]から自動取得
備考	手入力

値の編集

[分類][幹線種類][幹線太さ][配管][敷設方法][余長]は、手入力または値を選択します。

入力した内容は、[盤の管理]の該当する項目に反映します。[余長]は[長さ]の値に加算され、[盤の管理]の[亘長]に反映します。

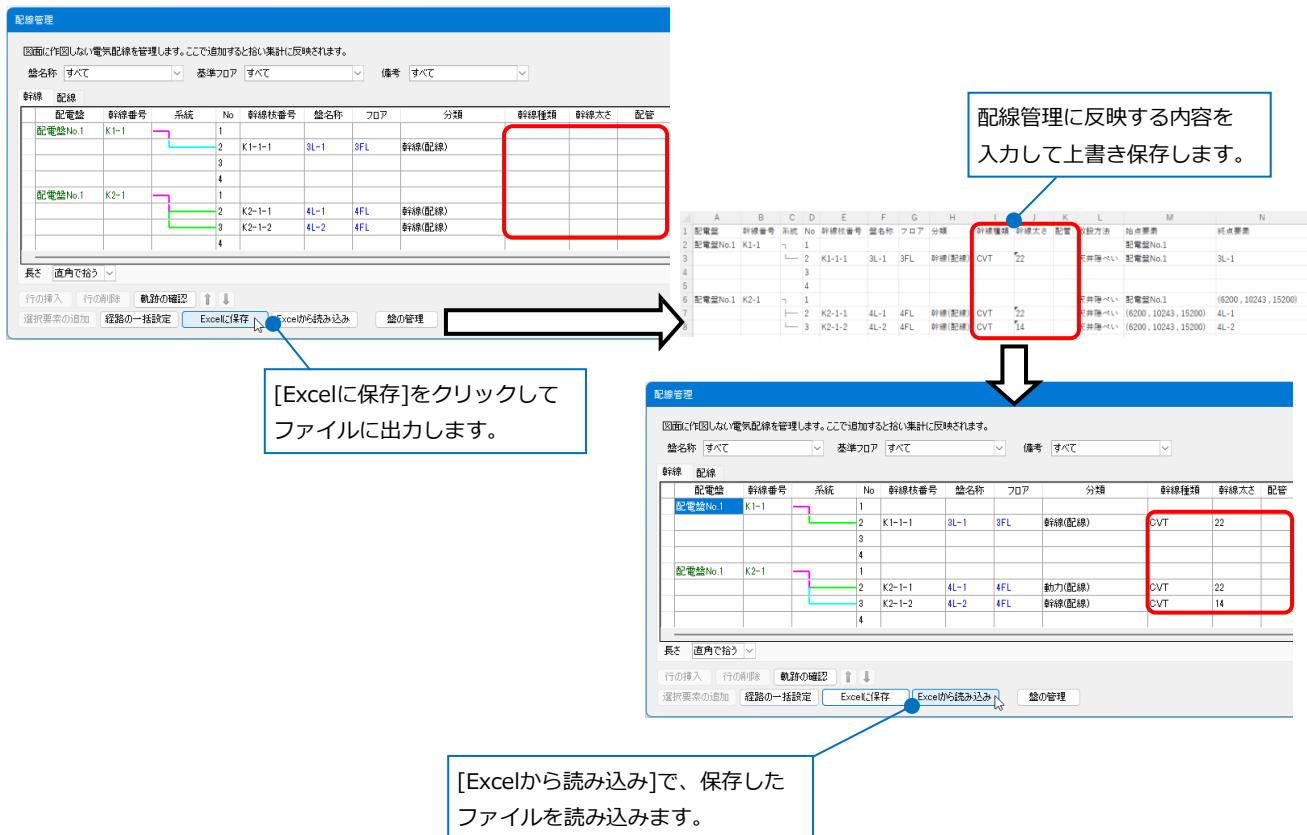
ここでは、[分類][幹線種類][幹線太さ][敷設方法]を設定します。



● 補足説明

[Excelに保存]で[幹線]タブの内容をExcelファイルに出力できます。

また、[Excelから読み込み]で、Excelで編集した[幹線種類][幹線太さ][配管]の値を読み込むことができます。外部ツールでの幹線サイズの選定などで活用することができます。



経路の設定

始点と終点の要素を設定

始点要素と終点要素を設定することで、各要素の基準点を結ぶ長さが[長さ]に表示されます。

幹線枝番号「K1-1-1」の[始点要素]で「配電盤No.1」を選択します。

[▼]をクリック

幹線 配線		系統	No.	幹線枝番号	盤名称	フロア	分類	幹線種類	幹線太さ	配管	敷設方法	始点要素	終点要素
配電盤No.1	K1-1		1									配電盤No.1	
			2	K1-1-1	3L-1	3FL	幹線(配線)	CVT	22		天井隠べい	3L-1	
			3									3L-1	
			4									4L-1	
配電盤No.1	K2-1		1									配電盤No.1	
			2	K2-1-1	4L-1	4FL	幹線(配線)	CVT	22		天井隠べい	4L-1	
			3	K2-1-2	4L-2	4FL	幹線(配線)	CVT	14		天井隠べい	4L-2	

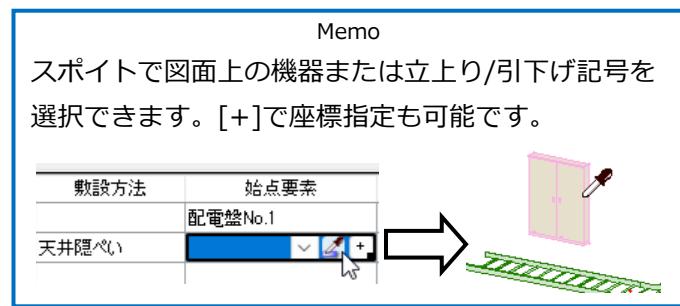


幹線 配線																	
配電盤No.1	K1-1		1										配電盤No.1				
			2	K1-1-1	3L-1	3FL	幹線(配線)	CVT	22		天井隠べい	配電盤No.1	3L-1				

Memo

スポットで図面上の機器または立上り/引下げ記号を選択できます。[+]で座標指定も可能です。

幹線の長さが表示されます。



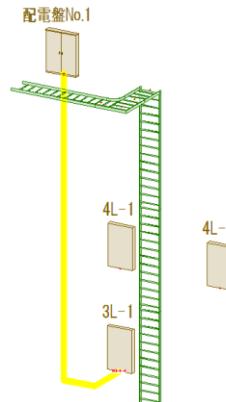
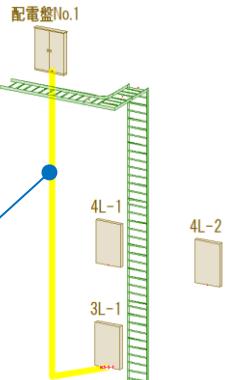
● 補足説明

幹線の長さを「直線で拾う」または「直角で拾う」から選択できます。切り替えることで[長さ]の値が変わります。

幹線 配線																
配電盤	幹線番号	系統	No.	幹線枝番号	盤名称	フロア	分類	幹線種類	幹線太さ	配管	敷設方法	始点要素	終点要素	経路	余長	長さ
配電盤No.1	K1-1		1									配電盤No.1	3L-1			
			2	K1-1-1	3L-1	幹線(配線)	CVT	22			天井隠べい	配電盤No.1	3L-1		13.5m	
			3													
			4													
配電盤No.1	K2-1		1									配電盤No.1				
			2	K2-1-1	4L-1	幹線(配線)	CVT	22			天井隠べい	4L-1				
			3	K2-1-2	4L-2	幹線(配線)	CVT	14			天井隠べい	4L-2				
			4													

指定した始点要素から終点要素までの軌跡
(軌跡の表示方法についてはp.27参照)

幹線 配線																
配電盤	幹線番号	系統	No.	幹線枝番号	盤名称	フロア	分類	幹線種類	幹線太さ	配管	敷設方法	始点要素	終点要素	経路	余長	長さ
配電盤No.1	K1-1		1									配電盤No.1	3L-1			14.4m
			2	K1-1-1	3L-1	幹線(配線)	CVT	22			天井隠べい	配電盤No.1	3L-1			
			3													
			4													
配電盤No.1	K2-1		1									配電盤No.1				
			2	K2-1-1	4L-1	幹線(配線)	CVT	22			天井隠べい	4L-1				
			3	K2-1-2	4L-2	幹線(配線)	CVT	14			天井隠べい	4L-2				
			4													

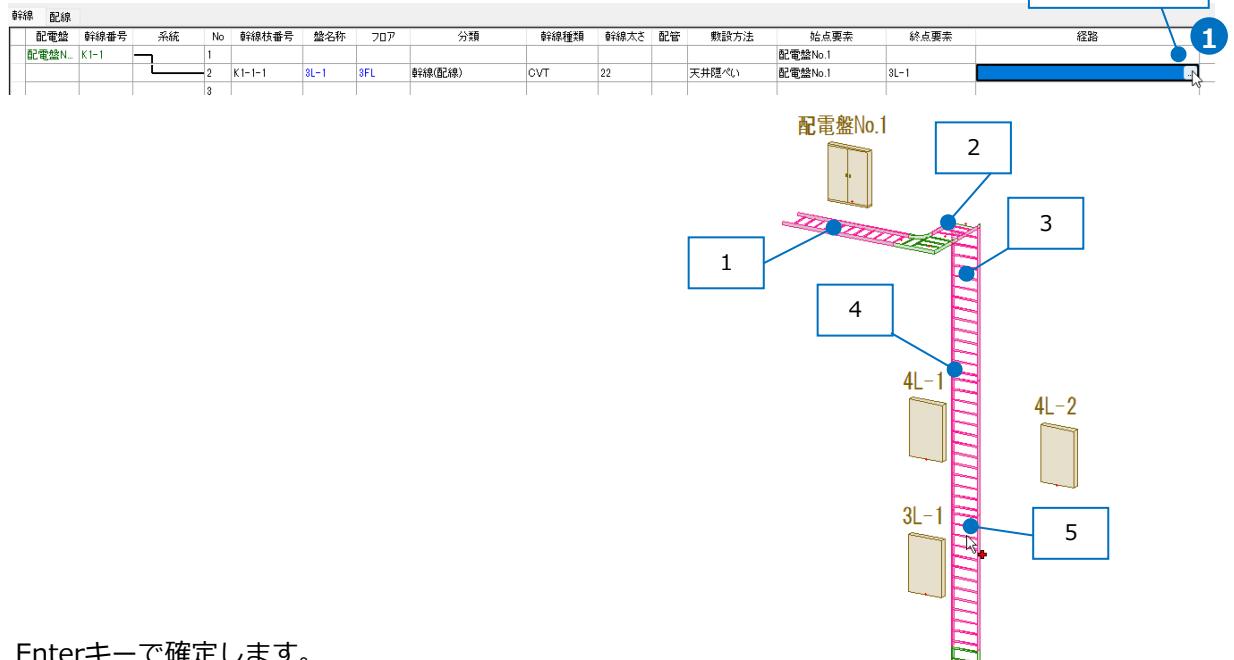


ルートを指定して経路を編集

始点と終点までの経路を図面上のケーブルラックなどのルートを指定して設定します。

ここでは、始点と終点の要素を設定後、ケーブルラックに沿った経路に変更します。

- 盤名称「3L-1」の行の[経路]の [...] をクリックし、図面内の配電盤から「3L-1」の付近までのケーブルラックを始点位置の配電盤から順番に選択します。



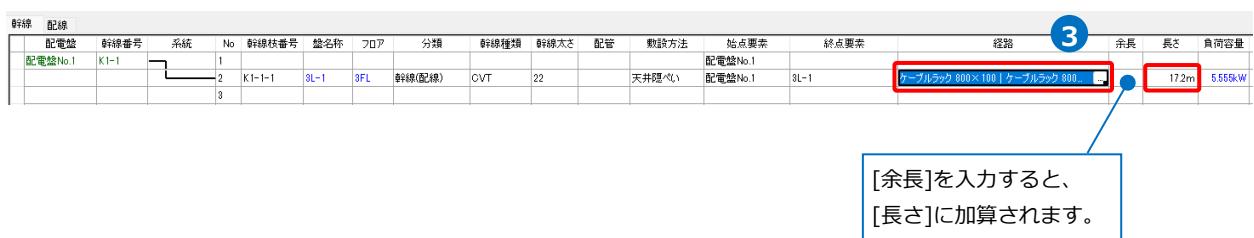
- Enterキーで確定します。

→[経路の選択]ダイアログが開き、指定したケーブルラックの経路が表示されます。



- [閉じる]をクリックします。

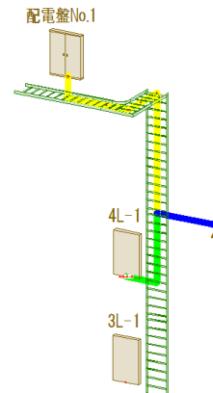
→[配線管理]ダイアログの[経路]に指定した経路が表示され、[長さ]に経路から求めた長さが表示されます。



座標を指定して経路を編集(途中で経路を変更)

ケーブルラックの途中から分岐して2つの盤につなぐ場合、経路を座標指定で設定します。

ここでは、配電盤No.1から分電盤4L-1、4L-2の分岐の経路を設定します。



- 幹線番号「K2-1」の行「配電盤No.1」の[終点要素]の[+]をクリックします。

幹線	配線	系統	No.	幹線枝番号	盤名称	フロア	分類	幹線種類	幹線太さ	配管	敷設方法	始点要素	終点要素
配電盤No.1 K1-1			1									配電盤No.1	
			2	K1-1-1	3L-1	8FL	幹線(配線)	CVT	22		天井隠べい	配電盤No.1	3L-1
			3										
			4										
配電盤No.1 K2-1			1									配電盤No.1	
			2	K2-1-1	4L-1	4FL	幹線(配線)	CVT	22		天井隠べい		4L-1
			3	K2-1-2	4L-2	4FL	幹線(配線)	CVT	14		天井隠べい		4L-2
			4										

[+]をクリック

- 配電盤No.1から分岐の開始位置をケーブルラック上で座標指定します。

→[終点要素]に指定した座標が表示され、[長さ]に始点要素、終点要素から求めた長さが表示されます。

始点要素	終点要素	経路	余長	長さ	負荷容量
配電盤No.1	3L-1	ケーブルラック 800×100 ケーブルラック 80...	17.2m	5.555kW	
配電盤No.1	(6200, 10126, 15200) [+]		9.3m		
(6200, 10126, 15200)	4L-1		8.7m	2.584kW	
	4L-2			3.005kW	

[終点要素]で座標を指定した場合、次の幹線の始点要素に同じ座標が入力されます。

- 分歧までの経路を設定します。

[経路]の [...] をクリックし、始点要素から分歧の開始位置までのケーブルラックを順番に選択します。

④ Enterキーで確定します。

→[経路の選択]ダイアログが開き、指定したケーブルラックの経路が表示されます。



⑤ [閉じる]をクリックします。

→[配線管理]ダイアログの[経路]に指定した経路が表示され、設定した経路から求めた長さが表示されます。

敷設方法	始点要素	終点要素	経路	余長	長さ	負荷容量
配電盤No.1						
天井隠べい	配電盤No.1	3L-1	ケーブルラック 800×100 ケーブルラック 800×100	17.2m	5.555kW	
天井隠べい	配電盤No.1	(6200, 10126, 15200)	ケーブルラック 800×100 ケーブルラック 800×100	9.6m		
天井隠べい	(6200, 10126, 15200)	4L-1		3.7m	2.584kW	
天井隠べい		4L-2			3.005kW	

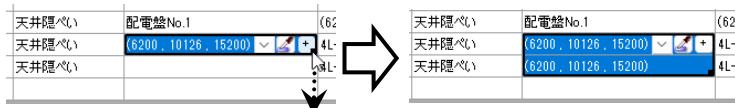
⑥ 幹線枝番号「K2-1-2」の始点要素を設定します。

幹線枝番号「K2-1-1」と同じ分岐の開始位置を指定するため、幹線枝番号「K2-1-1」の[始点要素]の座標をコピーして貼り付けます。

→[長さ]に幹線の長さが表示されます。

Memo

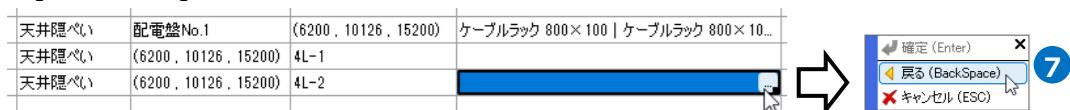
セルの右下の黒いハンドルをドラッグして数値をコピーすることもできます。



⑦ 幹線枝番号「K2-1-2」の経路を指定します。「4L-2」の[経路]の [...] をクリックします。

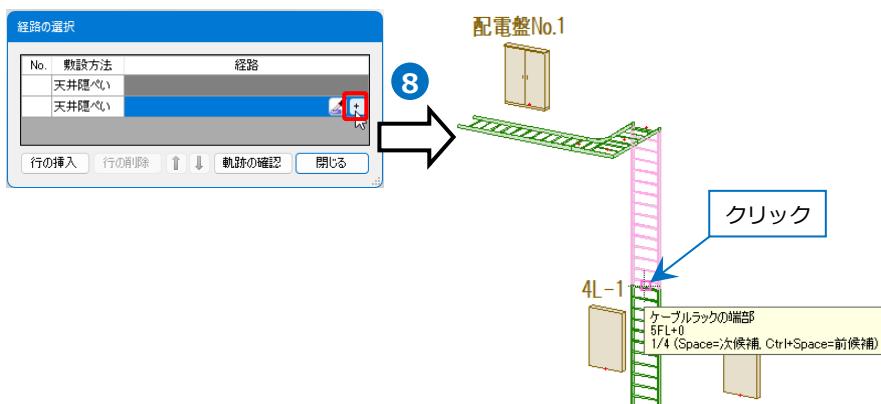
座標で指定するため、コンテキストメニューから[戻る]をクリックします。

→[経路の選択]ダイアログが開きます。



⑧ [経路の選択]ダイアログの[+]をクリックして、経路を座標指定します。

分岐の開始位置で1点目をクリックします。



⑨ 平面図上でラックと盤の間の[補助線上点]で2点目をクリックします。



⑩ Enterキーで確定します。

→[経路の選択]ダイアログが開き、経路の内容が表示されます。



⑪ [閉じる]をクリックします。

→[配線管理] ダイアログの[経路]に指定した経路が表示され、[長さ]に経路から求めた長さが表示されます。

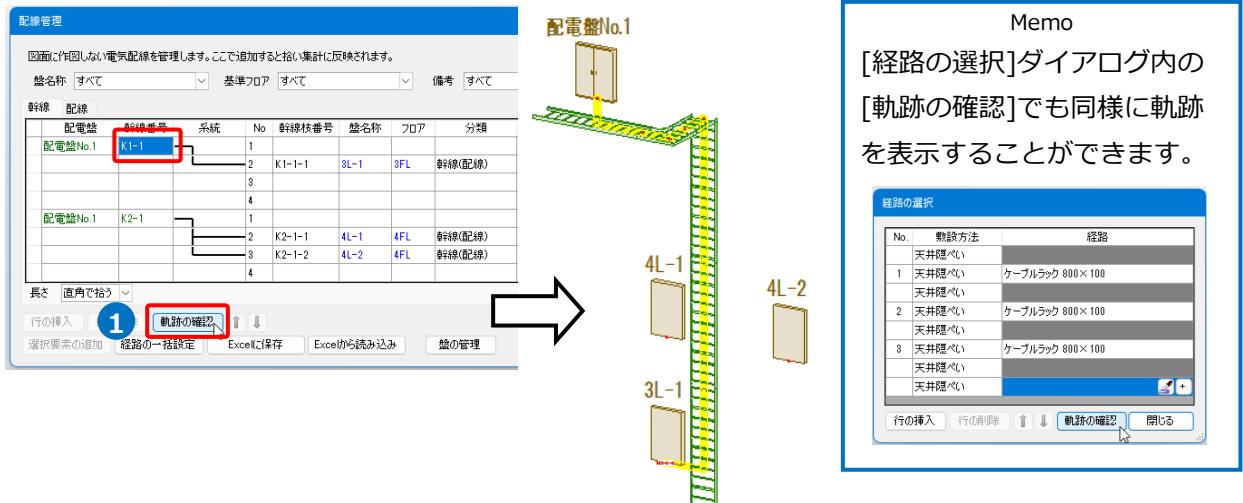
天井隠べい	配電盤No.1	(6200, 10126, 15200)	ケーブルラック 800×100 ケーブルラック 800×10...	9.6m	
天井隠べい	(6200, 10126, 15200)	4L-1		3.7m	2.584kW
天井隠べい	(6200, 10126, 15200)	4L-2	(6200, 10126, 15200)-(8153, 10126, 15200)	5.3m	3.005kW

経路の内容が記入されます。

軌跡の確認

幹線の行、またはセルを指定して[軌跡の確認]をクリックすると、経路に色を付けて、状態を確認することができます。

- 幹線番号「K1-1」内のセルをクリックして[軌跡の確認]をクリックします。

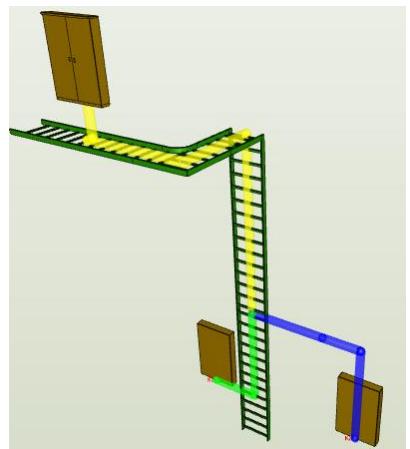
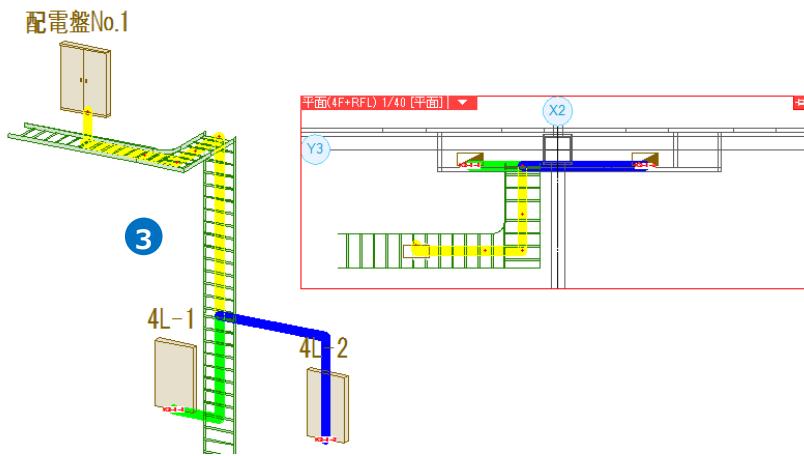


- 幹線番号「K2-1」の[系統]のセルをクリックし、色を選択します。



- [軌跡の確認]をクリックします。

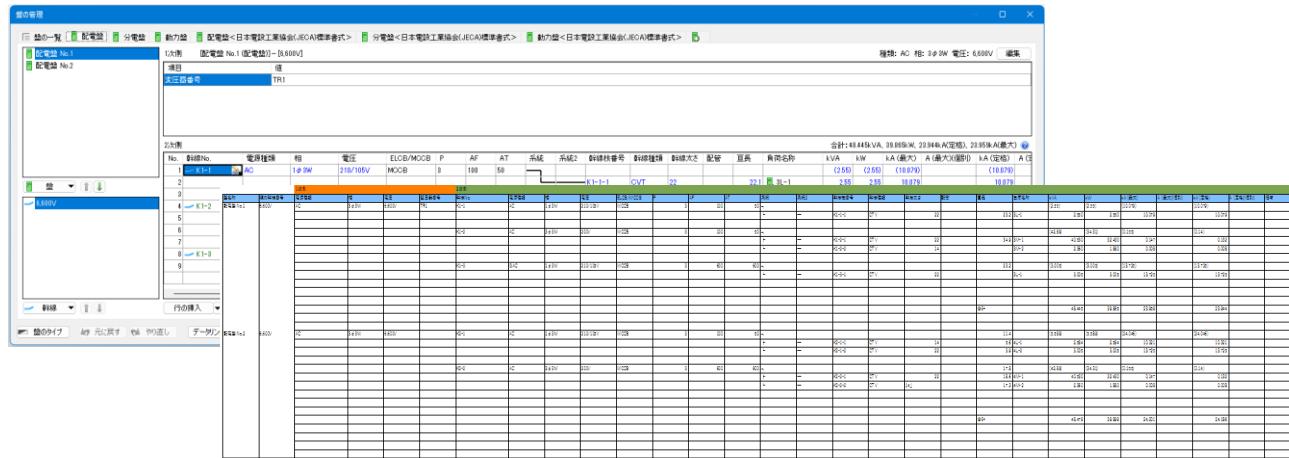
→指定した色で軌跡の確認ができます。



3. 盤図の出力

[盤の管理]-[データリンクの設定を出力]または、[データリンク]コマンドで、盤の種類ごとに[盤の管理]の内容を盤図として図面に貼り付けすることができます。

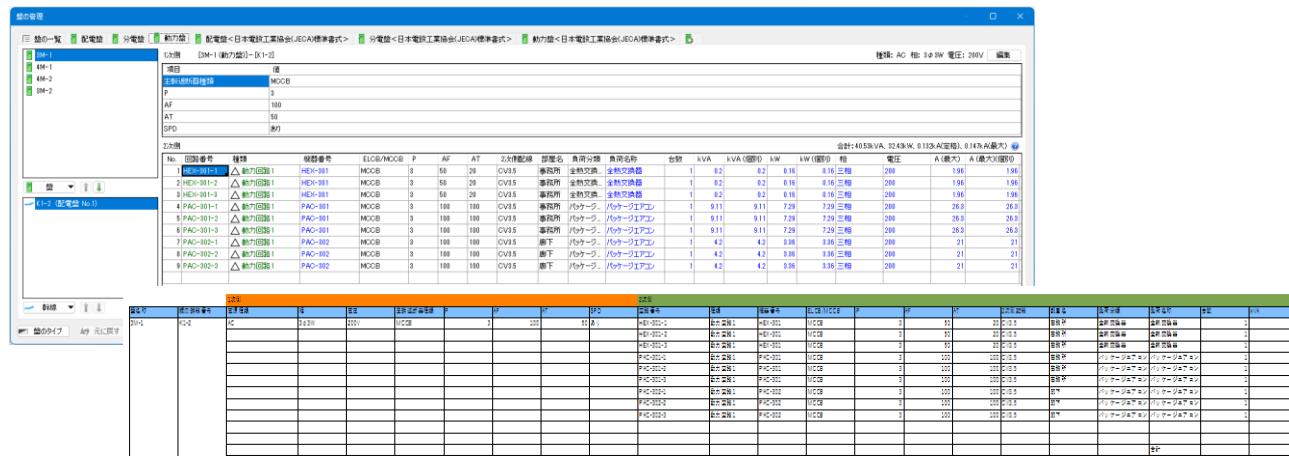
配電盤



分電盤



動力盤



[盤の管理]から出力

図面で設定した[盤の管理]の情報を、盤図として出力するためのデータリンクの設定を自動生成します。表として貼り付けることで、レブロの[盤の管理]とリンクします。

作成するファイルは、盤のタイプごとになります。

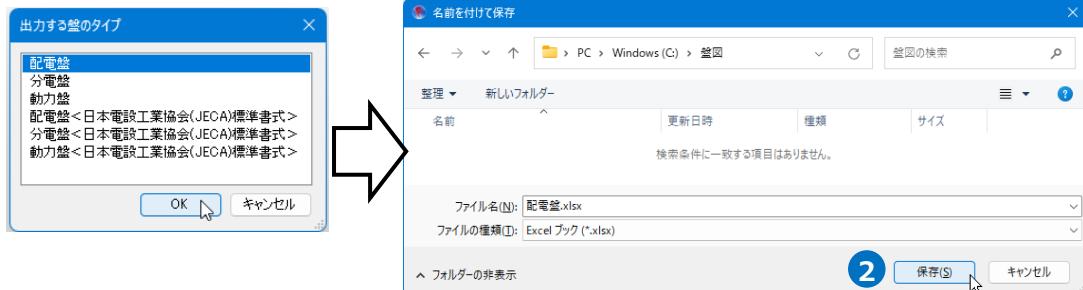
サンプル図面「サンプル事務所(盤図の出力).reb」を開きます。

- [電気]タブ-[盤の管理]を選択します。

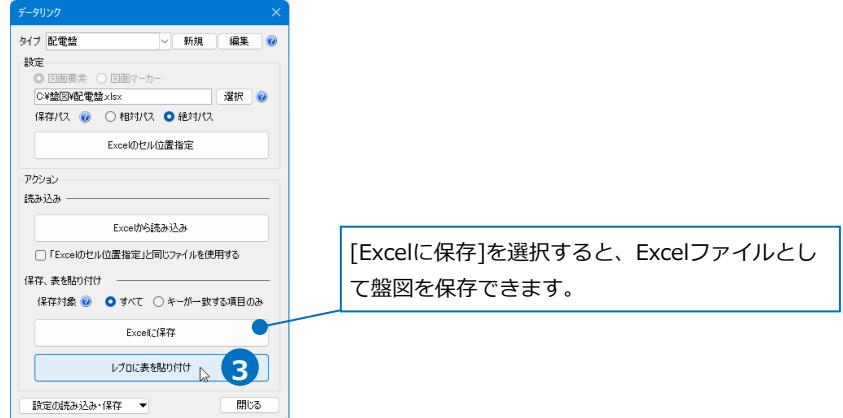
[盤の管理]ダイアログの[データリンクの設定を出力]をクリックします。



- [出力する盤のタイプ]ダイアログで盤のタイプを選択し、[OK]をクリックします。データリンクで使用する盤図のフォーマットが入ったExcelファイルが自動で作成されるため、保存先を選択して[保存]をクリックします。



- 「データリンクの設定」が自動で作成され、[データリンク]ダイアログが開きます。[レブロに表を貼り付け]をクリックします。



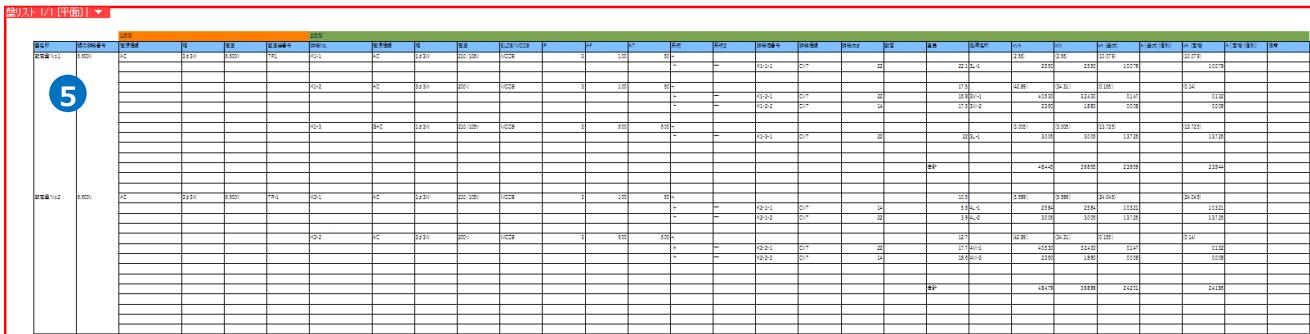
④ レイアウトを「盤リスト」に切り替えます。



4

5 表を貼り付ける位置でクリックします。

Excel側の設定を基に、[盤の管理]の情報を出力した表を図面に貼り付けます。

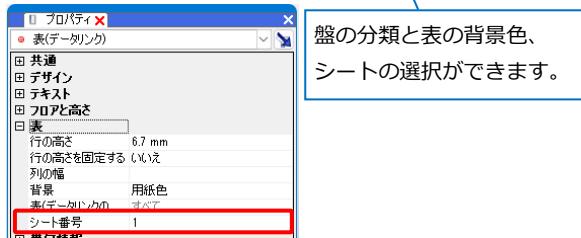


Memo

複数のシートが出力された場合、貼り付けたいシートを選択することができます。



配置後は、表のプロパティで貼り付けたシートを他のシートに変更することができます。



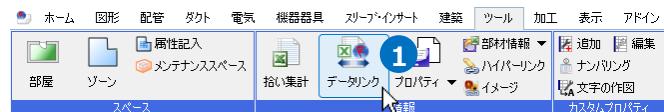
[データリンク]から出力

盤図のフォーマットをExcelで用意し、図面で設定した[盤の管理]の情報を図面上の「表」として貼り付けます。表として貼り付けることで、レブロの[盤の管理]とリンクします。
サンプル図面「サンプル事務所(盤図の出力).reb」を開きます。

レブロ要素とExcelファイルの関連付けの設定

出力対象とキーの設定

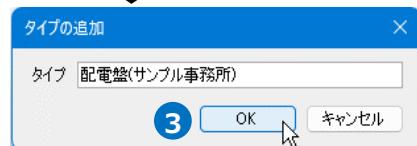
- [ツール]タブ-[データリンク]をクリックします。



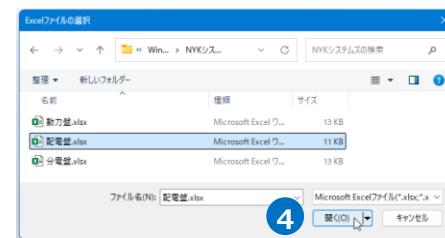
- [データリンク]ダイアログが開きます。
タイプの[新規]をクリックします。



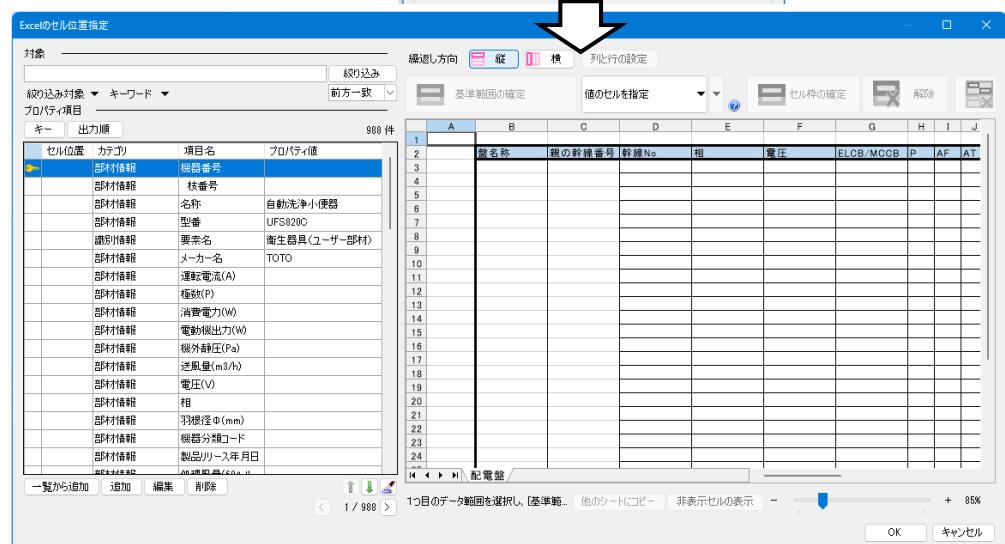
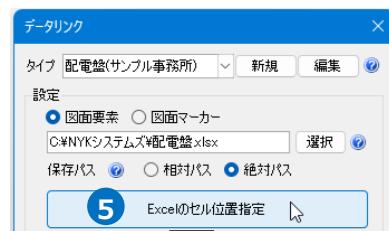
- [タイプの追加]ダイアログが開きます。
タイプ名を入力し、[OK]をクリックします。



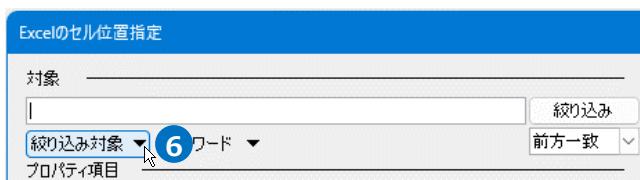
- [Excelファイルの選択]ダイアログが開きます。
データを読み込むExcelファイル「配電盤.xlsx」を選択し、[開く]をクリックします。



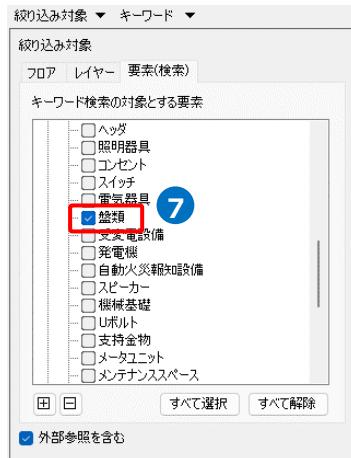
- [Excelのセル位置指定]をクリックします。
[Excelのセル位置指定]ダイアログが開き、選択したExcelファイルの内容が表示されます。



- 6 表として値を出力する対象要素を盤に絞り込みます。
[絞り込み対象]をクリックします。



- 7 [絞り込み対象]から [要素(検索)]タブの [機器・器具]-[盤類]にチェックを入れます。



- 8 [絞り込み]をクリックします。
部材検索が実行され、絞り込み対象と合致した部材が検索結果に表示されます。
リストに表示された部材がデータリンクの対象となります。

Memo
[盤の管理]で追加した仮想の盤は対象外となります。

- 9 [キー]をクリックし、[キー]ダイアログで [編集]をクリックし、レブロの配電盤の情報とExcelファイルを紐づけるプロパティ項目を選択します。

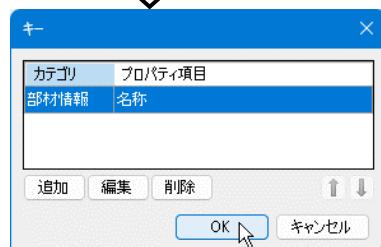
[カテゴリ] : 部材情報

[プロパティ項目] : 名称

※盤名称と紐づけるため、必ず[部材情報]-[名称]を指定します。

Memo

キーに設定したプロパティ項目は、
[プロパティ項目]の左端の列に[]が
表示されます。



読み込む範囲の設定

- ① Excelで1つ目の盤のデータに該当する範囲(B3~V18)を選択し、[基準範囲の確定]をクリックします。
基準となる範囲(濃いピンク色の枠)が確定します。

編造し方向 [縦] [横] [列] 行の設定

■ 基準範囲の確定 値のセルを指定 セル群の確定 解除 すべて解除

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V																
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36		

- ② 1シート分に出力したいデータの繰り返し範囲(薄いピンク色の枠)をハンドルで指定します。繰り返し方向は、[縦]と[横]が選択できます。

編造し方向 [縦] [横] [列] 行の設定

■ 基準範囲の確定 値のセルを指定 セル群の確定 解除 すべて解除

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V																
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36		

Memo

連続していない位置に表の続きがある場合は、[+]をクリックすると、離れた位置に範囲を指定することができます。
[-]をクリックすると繰り返し範囲を削除できます。

● 補足説明

[Excelのセル位置指定]で指定した基準となる範囲に、[盤の管理]で設定した盤1つ分の値が出力されます。

そのため、盤1つ分の情報が入るようにExcelの行数を指定します。

盤のタイプごとに出力するため、同じタイプの盤の中で一番行数の多いものに合わせると、各盤の情報が1シート内に収まります。

※負荷容量の合計や余白を出力する際は、設定した行数分必要になります。(p.38参照)



盤1つ分の情報が基準範囲に入りきらなかつた場合は、2つ目の範囲に続けて出力されます。

次の盤の情報は、3つ目の範囲から開始されます。

セルにプロパティ項目を割り当てる

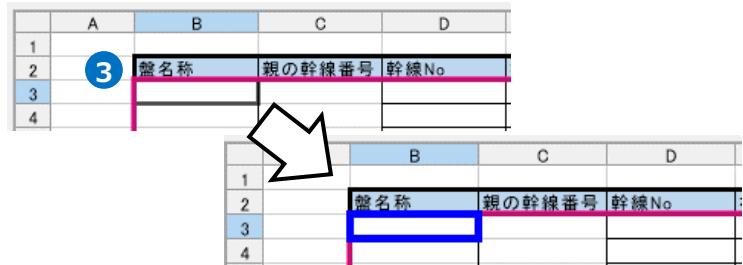
盤名称を出力するセルの指定

- 盤名称を出力するセルを指定します。
セルの指定方法は、「値のセルを指定」を選択します。
- [プロパティ項目]でレブロの要素と関連付ける項目の行をクリックし、[セル位置]のスプイトアイコンをクリックします。
[カテゴリ]：部材情報
[プロパティ項目]：名称



プロパティ項目			
キー	出力順	6 件	
セル位置	カテゴリ	項目名	プロパティ値
	部材情報	機器番号	
	部材情報	枝番号	
	部材情報	名称	4L-2
	部材情報	型番	

- 盤名称を出力するセル(B3)をクリックします。
→基準範囲内の選択したセルが青色枠で囲われます。
※繰り返し範囲を指定した場合は、相対位置が同じセルが水色枠で囲われます。

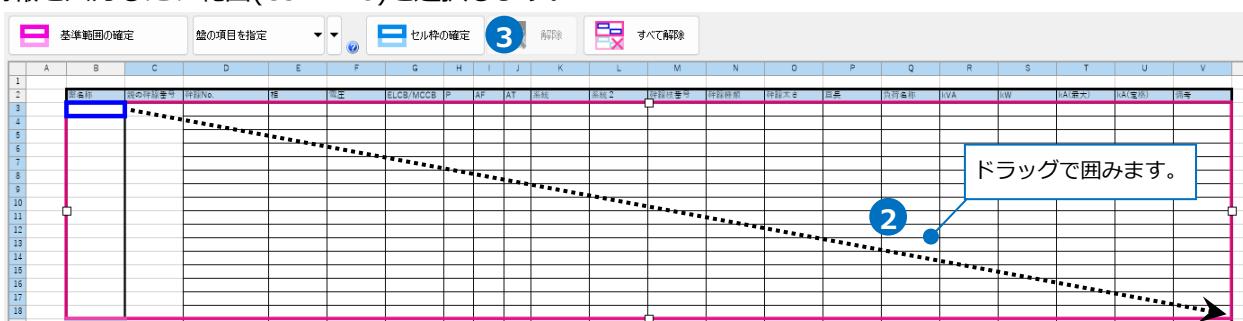


盤の項目を出力するセルの指定

- [盤の管理]の情報を入力します。
セルの指定方法は、「盤の項目を指定」を選択します。



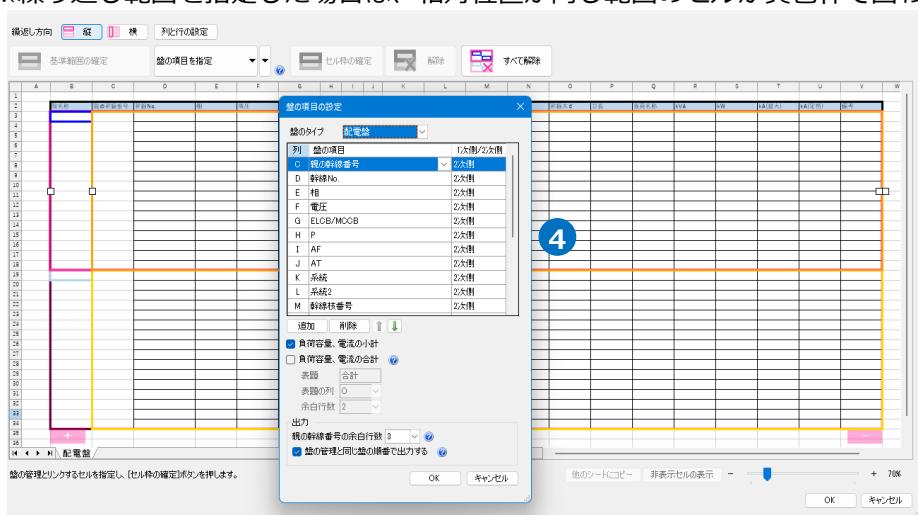
- 情報を入力したい範囲(C3～V18)を選択します。



- [セル枠の確定]をクリックします。

④ 選択したセル枠が橙色で囲まれ、[盤の項目の設定]ダイアログが表示されます。

※繰り返し範囲を指定した場合は、相対位置が同じ範囲のセルが黄色枠で囲われます。



⑤ 盤の項目を設定します。

盤図として出力したい盤に割り当てられた[盤のタイプ]を選択します。([盤のタイプ]についてはp.4参照)
ここでは、「配電盤」を選択します。



⑥ 列ごとにリンクする項目をプルダウンから選択します。



⑦ 設定が完了したら[OK]をクリックして、[盤の項目の設定]ダイアログを閉じます。

チェックを入れると、盤の負荷容量、電流の合計値を出力します。(p.38参照) 合計: 18.449kVA, 39.865kW, 23.944kA(定格), 23.956kA(最大)

負荷名	kVA	kW	kA(最大)	A(最大)(個別)	kA(定格)	A(定格)(個別)	備考
3L-1	(2.55)	(2.55)	(10.079)		(10.079)		
	2.55	2.55	10.079		10.079		
3M-1	(42.89)	(34.31)	(0.155)		(0.14)		
	40.53	32.43	0.147		0.132		
3M-2	(2.86)	(1.88)	(0.008)		(0.008)		
	2.36	1.88	0.008		0.008		
3L-1	(3.005)	(3.005)	(13.725)		(13.725)		
	3.005	3.005	13.725		13.725		

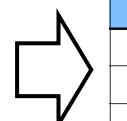
[盤のタイプ]で設定した項目タイプのタイトルから選択します。
項目タイプ「幹線番号」を設定した盤のタイプの場合は、「幹線番号」「負荷名称」の選択が必須です。

負荷名	kVA	kW	kA(最大)	A(最大)(個別)	kA(定格)
3L-1	(2.55)	(2.55)	(10.079)		(10.079)
	2.55	2.55	10.079		10.079
3M-1	(42.89)	(34.31)	(0.155)		(0.14)
	40.53	32.43	0.147		0.132
3M-2	(2.86)	(1.88)	(0.008)		(0.008)
	2.36	1.88	0.008		0.008
3L-1	(3.005)	(3.005)	(13.725)		(13.725)
	3.005	3.005	13.725		13.725

Memo

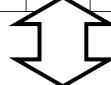
[盤の項目の設定]ダイアログで指定した「盤のタイプ」が項目タイプ「回路の種類」を持つ場合、「回路番号(記号付き)」を定義すると、「回路の種類」の記号で回路番号が表示されます。([レブロに表を貼り付け]のみ)

列	盤の項目	1次側/2次側
L	回路番号(記号付き)	2次側
M	備考	1次側



回路番号
101
102
103

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
1																					
2	盤名	親の幹線番号	幹線No.	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT	系統	系統2	幹線番号	幹線種類	幹線大きさ	並長	負荷名称	kVA	kW	kA(最大)	kA(定格)	備考
3	配電盤 No.1	6,600V	K1-1	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50								(2.55)	(2.55)	(10.079)	(10.079)	



D列 E列 F列 G列 H列 I列 J列 K列 L列 M列 N列 O列 P列 Q列 R列 S列 T列 U列 V列

No.	幹線No.	電源種類	相	電圧	ELCB/MCCB	P	AF	AT	系統	系統2	幹線番号	幹線種類	幹線大きさ	並長	負荷名称	kVA	kW	kA(最大)	A(最大)(回路)	A(定格)(回路)	備考
1	K1-1	AC	1φ 3W	210/105V	MCCB	3	100	50								(2.55)	(2.55)	(10.079)	(10.079)		
2											K1-1-1	OTV	22		3L-1	2.55	2.55	10.079		10.079	

Memo

[盤のタイプ]で設定した項目タイプの他に「親の幹線番号」「系統(結合)」を選択することができます。

「親の幹線番号」は盤名称ごと、親の幹線番号ごとに出力することができます。

「系統(結合)」は、幹線と2次側の盤のつながりの線を表示します。

8 セル枠をすべて設定後、[OK]をクリックします。

[データリンク]ダイアログに戻ります。

Memo

再度出力する対象の要素を絞り込む場合は、[Excelのセル位置指定]で「盤の項目を指定」のセルを[解除]します。

盤の項目を指定 セル枠の確定 解除

設定した内容を変更する場合は、「盤の項目を指定」横の[▼]から[盤の項目の設定]で変更することができます。

盤の項目を指定 盤の項目の設定

● 補足説明

負荷容量の合計と親の幹線番号の余白行数

[負荷容量、電流の合計]にチェックを入れると、盤ごとの負荷容量、電流の合計値を表に出力することができます。([盤の項目]で「親の幹線番号」を指定した時は、幹線番号ごとに出力することができます。)

[表題]：合計値を出力する際のタイトルを設定することができます。

[表題の列]：[表題]で設定したタイトルを出力する列を指定します。

[余白行数]：1つ目の情報から指定した行数分の空白行を作つて合計値を出力します。

[親の幹線番号の余白行数]は、[盤の項目の設定]で「親の幹線番号」を指定した時に設定します。

2つ目の幹線の情報を出力する際に、1つ目の情報の後に指定した余白行数分の空白行を作つて出力します。

親の幹線番号 (Main Busbar Number) is highlighted in the 'K1-1 (配電盤 No.1)' panel management window.

親の幹線番号	回路番号	字数	IECGB/MCCB	P	AF	AT	2次側回路	部品名	負荷公称	負荷名称	台数	VVA	VA(個別)	VA(個別)	電圧	A(最大)		
K1-1	101 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	事業所	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	12	400	1VA(0.00)	W(0.00)	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	102 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	事業所	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	2	400	1VA(0.00)	W(0.00)	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	103 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	6	204	34	204	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	104 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	7	630	37	630	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	105 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	8	204	34	204	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	106 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	9	204	34	204	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	107 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	10	204	34	204	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	108 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	11	204	34	204	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	109 R	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	12	408	34	408	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	110 R	R1R2 MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	照明	LED埋込天井灯(カバー付き)	LED埋込天井灯(カバー付き)	13	408	34	408	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	301 E	MCB	2	50	20	VVF2.0	女子トイレ	コンセント	コンセント壁付(カバー付き)	コンセント壁付(カバー付き)	14	500	30	500	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	302 E	MCB	2	50	20	VVF2.0	会議室	コンセント	コンセント壁付(カバー付き)	コンセント壁付(カバー付き)	15	200	100	200	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	303 E	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	コンセント	コンセント壁付(カバー付き)	コンセント壁付(カバー付き)	16	200	100	200	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	304 E	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	コンセント	コンセント壁付(カバー付き)	コンセント壁付(カバー付き)	17	100	100	100	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	305 E	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	コンセント	コンセント壁付(カバー付き)	コンセント壁付(カバー付き)	18	30	30	30	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流
	V1	MCB	2	50	20	VVF2.0	廊下	非常用照明	非常用(壁付)	非常用(壁付)	19	30	30	30	電源	最大電流	最大電流(個別)	実移動電流

親の幹線番号 (Main Busbar Number) is highlighted in the 'K1-3 (配電盤 No.1)' panel management window.

親の幹線番号の余白行数「3」 (Main Busbar Number Blank Line Count '3') is highlighted in the 'K1-3 (配電盤 No.1)' panel management window.

余白行数「2」 (Blank Line Count '2') is highlighted in the 'K1-1 (配電盤 No.1)' panel management window.

O列 : 表題「合計」 (Column O: Title 'Total') and **負荷容量、電流の合計** (Total Load Capacity, Current) are highlighted in the table.

余白行数「2」 (Blank Line Count '2') is highlighted in the 'K1-3 (配電盤 No.1)' panel management window.

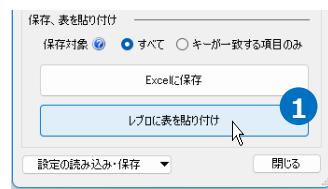
O列 : 表題「合計」 (Column O: Title 'Total') and **負荷容量、電流の合計** (Total Load Capacity, Current) are highlighted in the table.

余白行数「2」 (Blank Line Count '2') is highlighted in the 'K1-1 (配電盤 No.1)' panel management window.

O列 : 表題「合計」 (Column O: Title 'Total') and **負荷容量、電流の合計** (Total Load Capacity, Current) are highlighted in the table.

レブロに表を貼り付け

- ① [データリンク]ダイアログの[レブロに表を貼り付け]をクリックします。



- 2 レイアウトを「盤リスト」に切り替えます。



- 3 表を貼り付ける位置でクリックします。

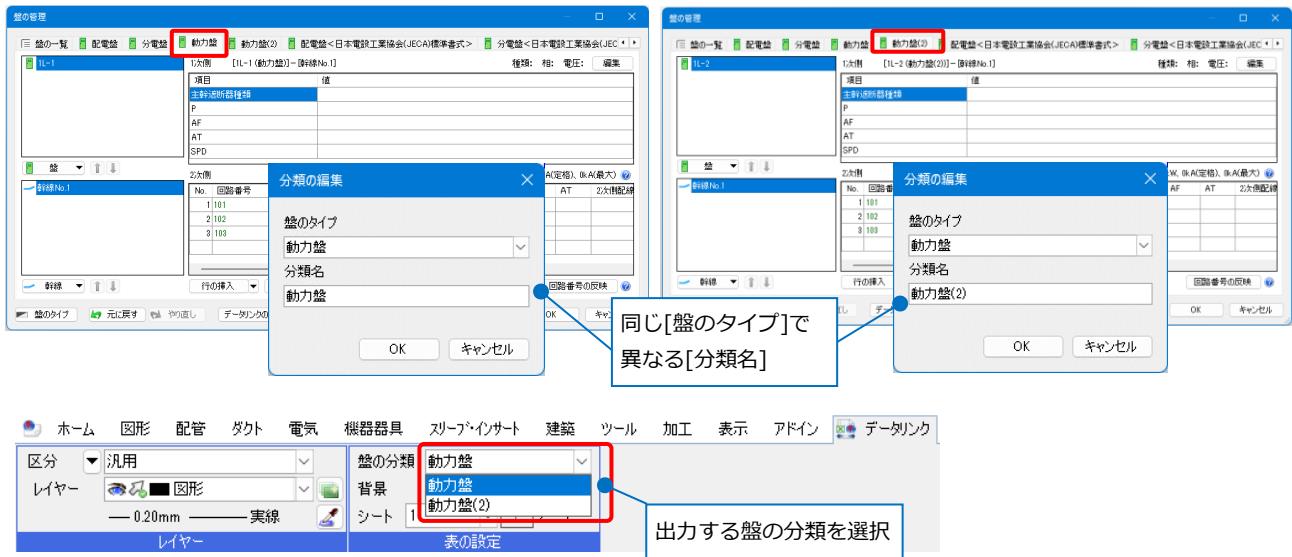
Excel側の設定を基に、「盤の管理」の情報を出力した表を図面に貼り付けます。

図面に貼り付けた表は、[盤の管理]と連動します。
表の値を変更すると、[盤の管理]の値も変更されます。
(p.40~41参照)

● 補足說明

盤の分類ごとに表として出力します。

同じ盤のタイプで複数の盤の分類がある場合、盤の分類を選択して、図面に表として貼り付けします。



[データリンク]で[Excelに保存]をすると、分類ごとにシートを分けてExcelファイルを保存します。

※データリンクの詳細については、テクニカルガイド「[データリンク\(概要編\)](#)」、「[データリンク\(操作編\)](#)」をご覧ください。

(参考)表の更新

[盤の管理]と[データリンク]で貼り付けた表はリンクします。

[盤の管理]で値が変われば、貼り付けた表の情報が変わり、表の[文字編集]を行うと[盤の管理]の項目の値が更新されます。

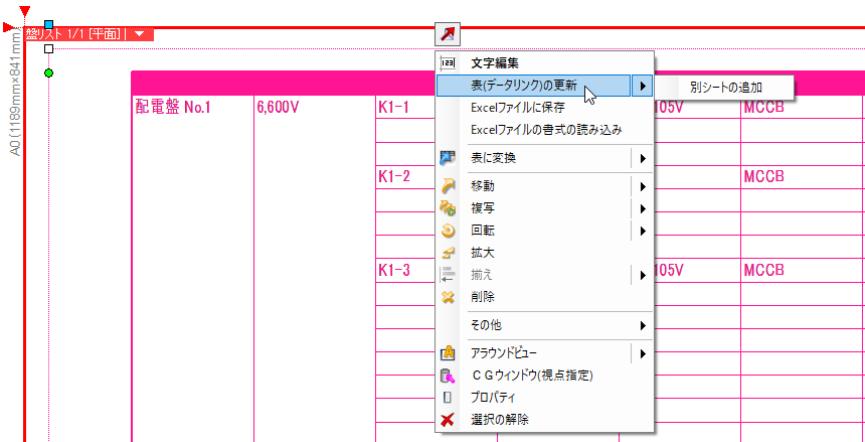
表の値を変更した時の[盤の管理]の値は、p.5~6「項目タイプ」の各タイプで手入力した時と基本的には同じです。そのため、手入力に対応していない「台数」や入力できる文字が制限されている項目については、表の[文字編集]でも制限があります。

データリンクのキーとなる「盤名称」と「親の幹線番号」は表で編集することはできません。

また、[配線管理]に連動する値は、「亘長」以外は[盤の管理][配線管理]に更新されます。

表の更新で反映される項目については、p.41をご参照ください。

[盤の管理]で表に出力する盤の増減があった場合は、貼り付けた表のコンテキストメニューから[表(データリンク)の更新]をします。



表の更新に伴う[盤の管理]への反映((※)のある項目は入力できる文字に制限があります。)

項目タイプ	表の編集	図面上の器具に反映	制限事項や[盤の管理]で編集した時との違い
自由文字列	○	×	
幹線番号[キー]	○	×	変更前の幹線番号は、[盤の一覧]タブのツリー上で一番親の幹線番号と同階層に移動します。
回路の種類[キー]	○(※)	○	図面の[回路の種類]と同じ名称のみ入力可能。
回路番号[キー]			
回路番号の添字(個別)[キー]	○	○	
回路番号の添字(結合)	×	×	
機器番号	○	×	[盤の管理]ダイアログ上のみ変更します。
負荷名称	○	×	[盤のタイプ]で項目タイプ「幹線番号」を設定した盤については、変更前の名称の盤は、ツリー上で一番親の幹線番号の下に移動します。
型番	○	×	[盤の管理]ダイアログ上のみ変更します。
電源種類(1次側)			
電圧[V](1次側)	○	○	
相(1次側)			
電源種類(2次側)	×	×	
電圧[V](2次側)	○(※)	○	数値のみ入力できます。 項目タイプに「幹線番号」が設定されている場合は編集不可
相(2次側)	○(※)	○	項目タイプに「幹線番号」が設定されている場合は編集不可
系統(配線管理)	×	×	
幹線枝番号(配線管理)			
幹線種類(配線管理)	○	-	[配線管理]に反映します。
幹線太さ(配線管理)			
配管(配線管理)			
亘長(配線管理)	×	-	
運転時の定格/最大電流(合計)	○(※)	×	数値のみ入力できます。 [盤の管理]ダイアログ上の表示用の値に上書きされます。
負荷容量(合計)			
運転時の定格/最大電流(個別)			
負荷容量(個別)	○	○	※「幹線番号(キー)」を設定している盤のタイプは入力不可
始動方式_工事区分			
始動方式			
台数	×	×	
親の幹線番号			

1次側の盤の情報は、編集した内容がすべて反映されます。